

# インターネットにおける「右傾化」現象に関する実証研究

## 調査結果概要報告書

§ 1. 調査の目的と方法 .....	1
§ 2. 「右傾化」にかかわる政治的諸態度とそれらの関連構造 .....	4
§ 3. 「ネット右翼」的な層の推計と分析 .....	9
§ 4. 右傾性因子とネット利用行動等との関連 .....	15
§ 5. 右傾性因子を用いたクラスタ分析によるケースの類型化 .....	20
参照文献 .....	26
付属資料：調査票および単純集計結果 .....	27

2008年9月10日

研究代表者 辻 大 介  
(大阪大学大学院人間科学研究科准教授)

本研究は財団法人日本証券奨学財団の平成18年度(第33回)研究調査助成金によっておこなわれた。また共同研究者として、北田暁大(東京大学大学院情報学環准教授)、鈴木謙介(国際大学 GLOCOM 研究員)、両氏にご協力いただいた。記して感謝したい。

〈主な知見〉

- (1) 「ネット右翼」について一般に指摘されることの多い特徴をもとに、次の a)~c) の 3 条件によって「ネット右翼」的な層を操作的に定義した。その比率は、本調査の有効サンプル数の 1.3%であった (全 998 人中の 13 人)。ただし、今回の調査サンプルにはインターネットのヘビーユーザが多いという偏りがあるため、一般的なインターネット利用者における比率は、1%を下回るものと推測される。
  - a) 「韓国」「中国」いずれに対しても、「あまり」「まったく」親しみを感じないと回答
  - b) 「首相や大臣の靖国神社への公式参拝」「憲法 9 条 1 項 (戦争放棄) の改正」「憲法 9 条 2 項 (軍隊・戦力の不保持) の改正」「小中学校の式典での国旗掲揚・国歌斉唱」「小中学校での愛国心教育」という 5 項目すべてに「賛成」「やや賛成」と回答
  - c) この 1 年の間に、政治や社会の問題について「自分のホームページに、意見や考えを書きこんだ」「他の人のブログに、自分の意見や考えをコメントした」「電子掲示板やメーリングリスト等で議論に参加した」という 3 項目いずれかに、したことが「ある」と回答
- (2) 上記の条件 b) を「3 項目以上に賛成」に緩和した場合、「ネット右翼」的な層は 31 サンプルになる。この定義条件を緩和した「ネット右翼」的な層の特徴は、男性が多い、掲示板「2ちゃんねる」の利用頻度が高い、「マスコミの情報は偏っていて信用できない」とする傾向が強い、「炎上」に許容的、などである。
- (3) ただ、これらの層は、ネットの外でも署名・投書・集会出席などの活動に積極的な傾向がみられる。このことからすれば、「ネット右翼」はネット特有の現象というよりも「リアル」と地続きの現象であり、これまでは目につきにくかった「右翼」的な潜在層がネット上で可視化されたととらえるのが適当かもしれない。
- (4) 右傾性 5 因子——移民排斥感情、移民肯定評価、政治的ナショナル・プライド、文化的ナショナル・プライド、愛国心——を従属変数とし、メディア利用時間やネット利用諸項目を独立変数とした重回帰分析をおこなった結果、ネットの総利用時間よりも「2ちゃんねる」利用のほうが右傾性因子と多くの関連を示した。
- (5) 右傾性 5 因子を用いたクラスタ分析によりサンプルを、第 1 クラスタ (排外性=低、愛国性=中)、第 2 クラスタ (排外=高、愛国=高)、第 3 クラスタ (排外=中、愛国=低) に分類。第 3 クラスタは他に比べて、政治参加・社会参加・協力行動・対人関係など全般において消極的・不活発な傾向がみられた。

## § 1. 調査の目的と方法

本調査研究は、インターネット利用と政治的態度・行動、とりわけナショナリズム等の右傾化傾向との関連を検証するためにおこなわれたものである。まず研究の背景を簡単に説明しておこう。

一方向的で寡占的な従来のマスメディアとは異なり、電子ネットワークは情報発信や発言機会を平等化・自由化し、民主的な公論の場をもたらす。パソコン通信の黎明期以来、このような期待がしばしば語られてきたが、インターネットの大衆化にともない、近年はむしろ逆の論調が目立ち始めた。たとえばアメリカの憲法学者 C. Sunstein (2001=2003) は、ネット上では利用者の選好に基づく情報接触が容易になることで、言論の偏りが集団的に増幅される分極化（成極化 *polarization*）の可能性のあることを、社会心理学的な実証研究 (P. Wallace 1999=2001) を引きながら指摘している。

こうした分極化は、日本では特に「右傾化」と結びつき、排外的ナショナリズムや歴史修正主義的な言論がネット上で勢いを得ているともいわれる。このいわゆる「ネット右翼」現象については、匿名掲示板「2ちゃんねる」の分析を中心に、すでにいくつも論考が著されているが（北田暁大 2003, 近藤瑠漫・谷崎晃編 2007）、実際にネット利用者を調査してその政治的態度を分析した研究はきわめて少ない。佐藤哲也ら（2003）や遠藤薫（2007：218-28）はその稀少な先行研究例にあたるが、右／左と形容されるようなイデオロギー的な政治意識はやはり調査項目には含まれておらず、より一般的な政治関心や政治参加（投票行動、政党支持など）とネット利用との関連が分析されているにとどまる。

そこで本研究では、ネット利用者を対象とした質問紙調査をおこない、(1) ブログや電子掲示板等で積極的に情報発信をおこなうネット利用者の政治的態度に「右傾化」傾向が認められるか、(2) より一般的な政治的態度を含め、種々の属性や社会心理傾向、対人関係などがネット上での情報行動にどのように関連しているか、を中心に計量的なデータ分析をおこなうこととした。

これらの課題の究明は、急速に情報化の進む現在、社会的要請も高いものと思われる。仮に上記の(1)について、(積極的な) ネット利用と政治的態度の「右傾化」との関連が薄い場合、ごく一部の極端な利用層が目立つことによって「ネット右翼」現象は近視眼的に過大評価されているだけの可能性がある。このような錯覚に基づく議論は、ネットのもつ政治(学)的な含意を見誤ることもなろう。また(2)については、日本の場合、ネットでの過激な政治的態度表出は、その場を盛り上げ、コミュニケーションをつなげていくための「ネタ」という性格が強く、信条の直截的な表明とは異なる、といった指摘も共同研究者の北田暁大（2005：192-216）や鈴木謙介（2005：136-57）からなされている。

調査は、株式会社マクロミルに委託し、ウェブ・フォームを用いた質問紙調査システム QuickMill (<http://www.macromill.com/service/quickmill/quickmill.html>) を用いて実施した。母集団は同社のモニタ会員のうち 20～44 歳の者であり、5 歳区分×男女の 10 層に各 100 サンプルを

割り当て、合計 1000 サンプルを目標回収数とした（割当法による有意抽出）。実査は 2007 年 10 月 19 日(金)20 時 42 分に開始、割当層ごとにモニタからの回答が目標数に達した時点で受付が締め切られ、22 日(月)0 時 27 分にすべての層の回収が終了した。最終的な回収数は目標にやや余分をもたせた 1030 サンプルであり、うち回答に信頼性を欠く 32 サンプルを除いた 998 サンプルを有効回答とした。割当層ごとの内訳は次のとおりである。

	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	(計)
男	95	99	101	99	98	492
女	100	101	102	100	103	506
(計)	195	207	206	206	206	998

このサンプルは、ウェブ調査会社のモニタ会員から抽出されたため、すべてネット利用者に該当するが、ネット利用者全体を母集団に無作為抽出されたわけではないため、分析結果の解釈にあたっては注意を要する点がある。マクロミルがモニタ会員に対して 2006 年 12 月におこなった調査\*1によれば、他の一般的な諸調査の結果と比べて、未既婚や家族構成、年収・資産などの基本属性に大きな差はないが、インターネットのヘビーユーザが多いという特徴がみられる。2005 年 10 月に日本新聞協会のおこなった「全国メディア接触・評価調査」の結果では、ネット利用者のうち、1 日の利用時間 30 分未満が 35%を占め、3 時間以上は 12%であるのに対し、マクロミルモニタでは 30 分未満は 5%にすぎず、3 時間以上が 29%に上っている。

このような傾向はやはり今回のサンプルにも認められる。2007 年 3 月に RDD(Random Digit Dialing)方式でおこなわれた全国調査によれば、ネット利用者のうち週 5 時間以上利用の割合は、男 20 代・30 代・40 代/女 20 代・30 代・40 代でそれぞれ 62%・48%・48%/46%・35%・30%であった（財団法人インターネット協会 2007：51）。それに対して今回の調査サンプルでは、95%・96%・95%/94%・91%・88%といずれの層でもかなりの高率に上っている（40 代のサンプルは 44 歳までなので参考値であり、直接の比較はできない）。

したがって今回の調査結果、とりわけ単純集計レベルの結果を解釈する際には、サンプルがインターネット利用者全般を代表するというよりは、ヘビーユーザの特徴を強調するものとなっていることに留意する必要がある。ただし、サンプルにヘビーユーザが多く含まれるだろうことは、調査実施前から（予想していたという以上に）意図していたものでもあった。「ネット右翼」現象の担い手がヘビーユーザである——そのなかでも限られた一部のユーザであろう——と考えられることからすれば、サンプル数の制約のなかでむしろ調査目的にかなった拡大鏡的な精査が可能になるからだ。拡大鏡によって明らかにされた知見をネット利用（者）全体のなか位置づけなおすには、他のより一般的なサンプルの調査との比較・接続があらためて必要になるが、まずはヘビーユーザに焦点をあててその政治的態度的特徴を明らかにすることが、本調査研究の基本目的である。

\*1 『マクロミルモニタのライフスタイル調査 2007』 [http://www.macromill.com/monitor\\_info/lifestyle/](http://www.macromill.com/monitor_info/lifestyle/) (2007 年 10 月 14 日アクセス)

## § 2. 「右傾化」にかかわる政治的諸態度とそれらの関連構造

この節では、政治的態度に関する諸項目について、とりわけ「右傾化」にかかわる項目を中心に、それらの内的関連構造の分析をおこなう。これは次節以降の分析の前提となる予備的作業に位置づけられる。各項目の具体的な設問形式や単純集計結果については本稿末尾の付属資料「調査票と単純集計結果」を参照されたい。

本調査ではまず、「ネット右翼」現象にかかわる具体的なトピックとして、「首相や大臣の靖国神社への公式参拝」「憲法 9 条 1 項（戦争放棄）の改正」「憲法 9 条 2 項（軍隊・戦力の不保持）の改正」「小中学校での国旗掲揚・国歌斉唱」「小中学校での愛国心教育」への賛否をたずねている。これら 5 項目それぞれについて、「賛成」「やや賛成」と回答した率と、性別・年齢・学歴・職状況・世帯年収との Pearson の相関係数値をまとめて示したものが、表 2-1 である。相関係数の計算にあたっては「賛成」5～「反対」1 とし、「わからない」「答えたくない」は欠損値として扱った。

※ 属性変数に関しては、性別は「男」を 1 / 「女」を 2 とし、学歴(Q39)は在学者も既卒者も一括して、「中学」「高校」を 1 / 「短大・高専」「専門学校」を 2 / 「大学」「大学院」を 3 とした（「その他の学校」は欠損値扱い）。また、職状況は調査会社から提供されたモニタ属性の職業変数が「公務員」「経営者・役員」「会社員（事務系）」「会社員（技術系）」「会社員（その他）」「自営業」「自由業」を 1 / 「専業主婦」「パート・アルバイト」「学生」「その他」を 0 とした。世帯年収(Q40)は「わからない／答えたくない」を欠損値扱いとした。以降の分析に用いられる属性変数もこれに準じた数値処理をおこなっている。

表 2-1. 「右傾」指標 5 項目の賛成率および属性との相関

	賛成率	性別	年齢	学歴	職状況	世帯年収
Q38-1. 靖国公式参拝	31%	-.02	-.10**	.01	-.03	-.02
Q38-2. 憲法 9 条 1 項改正	19%	-.13***	.06	-.07*	.06*	.05
Q38-3. 憲法 9 条 2 項改正	23%	-.18***	.05	-.03	.08*	.04
Q38-9. 国旗・国歌	36%	-.12***	.05	.00	.08*	.07
Q38-10. 愛国心教育	30%	-.07*	.11**	-.01	.09**	.08*

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性

男性ほど、また、フルタイムの職にある者ほど、「右傾」的態度がみられるが、その他の属性についてはあまり一貫した傾向はみられないといっていだろう。また職状況は性別と比較的高い相関関係にあり ( $r=-.49$ )、性別でコントロールした偏相関分析をおこなうと、これら 5 項目とのあいだに有意な相関はみられなくなる。

次に、これも「ネット右翼」と結びつけられることの多い、いわゆる「嫌韓嫌中」について、「韓国（大韓民国）」と「中国（中華人民共和国）」に対する親近感をたずねた結果（親しみを「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した率）と属性との相関係数値を、表 2-2 に

示す。相関値は、親しみを「まったく感じない」を1～「かなり感じる」を5として計算した。なお参考までに、アメリカについての分析結果も付記してある。

表 2-2. 「韓国」「中国」への非親近率および属性との相関

	親しみ 「感じない」率	親近度との相関				
		性別	年齢	学歴	職状況	世帯年収
Q32-6. 韓国	40%	.14***	-.01	.06	-.05	.05
Q32-4. 中国	57%	.05	-.03	.05	.00	-.02
Q32-1. アメリカ	22%	.02	.09**	.03	-.06	.13***

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性

韓国に関しては、女性のほうがより親しみを感じるという傾向がみられる。これは韓流ブームの影響によるものかもしれない。中国については韓国以上に親しみを感じない率が高いが、いずれの属性とも有意な相関は認められない。

以上の7項目が「ネット右翼」と現象面で具体的に結びつく政治的態度として設定したものであり、次節ではこれらを用いて本調査研究における「ネット右翼」的な層の操作的定義をおこない、その比率を試算してみることにしたい。参考までに、これら7項目相互の相関を表2-3に示しておく。

表 2-3. 「右傾性」にかかわる7指標の相関

	靖国	9条1項	9条2項	国旗国歌	愛国教育	韓国
靖国公式参拝	—					
憲法9条1項改正	.36***	—				
憲法9条2項改正	.39***	.78***	—			
国旗・国歌	.39***	.25***	.32***	—		
愛国心教育	.36***	.30*	.33***	.70***	—	
韓国（親近感）	-.13***	-.10**	-.11**	-.10**	-.06	—
中国（親近感）	-.11**	-.03	-.04	-.09**	-.05	.60***

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性

さて今回の調査では、排外主義やナショナル・プライド、愛国心など、「右傾」性に関わるより一般的態度についても設問している。つづいてこれらに関する分析結果を記述していこう。

自国民・自民族以外の人びと（特に移民）に対する排外的態度については、2003年におこなわれたISSP(International Social Survey Program)の第2次ナショナル・アイデンティティ調査の日本版調査票を参考に\*2、7項目を設問した。ただし、これらをそのまま用いると後の分析が煩雑になりすぎるため、主成分法で固有値1以上の2因子を抽出し、プロ

\*2 ISSP2003-“National Identity II”

([http://www.geis.or.jp/en/data\\_service/issp/data/2003\\_National\\_Identity\\_II.htm](http://www.geis.or.jp/en/data_service/issp/data/2003_National_Identity_II.htm))を参照のこと。

マックス回転をくわえた因子分析をおこなって、各因子得点を採用することとした。その結果が表 2-4 である（表中の項目に「そうした外国人」とある場合、設問文における「日本に定住しようと思って日本へ来る外国人」のことを指している）。

因子負荷量の高い項目からすると、因子 I はセキュリティ不安の色合いをおびた情緒的な「移民排斥感情」を表していると解釈できるだろう。一方、因子 II はより理知的に、社会全体に対する移住外国人の影響を肯定的にとらえようとする傾向と考えられる。そこでこれを「移民肯定評価」と名づけておきたい。これらの因子は、移住外国人に対する感覚的な反応と理性的な反応との区別に対応するものとみなしうるが、完全に独立であるわけではなく（斜交回転によって抽出された因子なので当然ではあるが）0.1%水準で有意な  $r = -.29$  の負の相関関係にある。

表 2-4. 排外的態度 7 項目に関する因子分析の結果（プロマックス回転後の因子パターン）

	I	II
Q35-5. 政府は、そうした外国人の援助に金を使いすぎている	.74	-.05
Q35-3. そうした外国人は、日本人から仕事を奪っている	.72	-.05
Q35-1. そうした外国人が増えれば、犯罪発生率が高くなる	.72	-.12
Q34-9. 不法滞在している外国人を、日本政府はもっと厳しく取り締まるべき	.69	.21
Q35-2. そうした外国人は、全体としては日本の経済に役立っている	.15	.84
Q35-4. " 新しい考えや文化をもたらし、日本の社会をよくしている	-.07	.73
Q34-8. 日本に合法的に移住した外国人は、日本人と同じ権利を持つべき	-.07	.68
	因子間相関	-.29

表 2-5. ナショナル・プライド 12 項目に関する因子分析の結果（プロマックス回転後の因子パターン）

	I	II
Q33-7. 文学芸術の分野で日本人が成し遂げたこと	.87	-.03
Q33-5. 科学技術の分野で日本人が成し遂げたこと	.83	-.01
Q33-6. スポーツの分野で日本人が成し遂げたこと	.81	-.08
Q33-11. 日本の伝統文化	.76	.02
Q33-12. 現代日本のポピュラー文化（アニメ、J-POP など）	.68	.03
Q33-4. 日本の社会保障制度	-.15	.79
Q33-2. 世界における日本の政治的影響力	-.12	.78
Q33-10. 日本社会における公正さと平等	-.03	.75
Q33-1. 日本における民主主義の現状	-.02	.73
Q33-3. 日本の経済的成果	.22	.62
Q33-8. 日本の自衛隊	.16	.55
Q33-9. 日本の歴史	.31	.40
	因子間相関	.37

次に、ナショナル・プライドに関する 12 項目について、同様の因子分析をおこなった結果を表 2-5 に示す。これらも ISSP 調査の設問を用いたものだが、「日本の伝統文化」「現代日本のポピュラー文化（アニメ、J-POP など）」は今回新たに加えた項目である。それぞれ「とても誇りに思う」～「まったく誇りに思わない」の 4 件法での選択回答を求めた。

因子Ⅰは「文化的」な、因子Ⅱは「政治的」なナショナル・プライドにそれぞれ対応するものと解釈できよう。このように文化的と政治的に分かれる因子構造は、ISSP 調査のデータを用いた先行研究の分析結果（田辺 2008）とも一致している。「日本の歴史」という項目がいずれの因子にも同程度の負荷を示しているのは、歴史（教科書）問題が近年の目立った政治的アジェンダになっていることの反映だろう。

愛国心に関連する設問としては、日本国内で近年おこなわれたいくつかの世論調査などを参考に 4 項目を作成した。これらについての主成分分析の結果が表 2-6 であり、固有値 1 以上は第 1 主成分のみなので（固有値 2.43、寄与率 60.7）、これをそのまま「愛国心」因子として用いることにしたい。

表 2-6. 愛国心関連 4 項目に関する主成分分析の結果

	負荷量
Q34-2. 日本人である以上、国のための奉仕活動には積極的に参加すべきだ	.82
Q34-4. 日本人のあいだに国を愛する気持ちをもっと育てる必要がある	.80
Q34-1. 日本人であれば、日本に愛着をもつのは自然な感情だ	.80
Q34-3. 日本人なら、スポーツの国際試合で日本チームだけに声援をおくるのは当然だ	.69

以上で抽出した 5 因子相互の相関関係は、表 2-7 のようになる。ここで興味深いのは、文化的／政治的ナショナル・プライド（以下、NP と略記）および愛国心が高いほど、移民排斥感情が強い一方で、移民を肯定的に評価する傾向も強いことである。パトリオティック（愛国的）な意識は、外集団に対して情緒的な側面では非寛容であり、理知的な側面では寛容であるというアンビバレンスをはらんでいる様子がうかがえる。

表 2-7. 「右傾性」5 因子の相関

	移民排斥感情 因子	移民肯定評価 因子	文化的 NP 因子	政治的 NP 因子	愛国心因子
移民肯定評価因子	-.29***	—			
文化的 NP 因子	.09**	.20***	—		
政治的 NP 因子	.13***	.05	.37***	—	
愛国心因子	.26***	.07*	.38***	.44***	—
性別（男=1, 女=2）	-.10**	-.01	.05	-.02	-.07*
年齢	.09**	-.07*	-.10**	-.03	.08*
学歴	-.07*	.08*	.12***	.09**	.03
職状況	.09**	.01	-.05	-.03	.08*
世帯年収	-.02	.05	.03	.08*	.10**

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性



さらにこれら 5 因子と、先にみた 7 項目のより具体的な「右傾」指標との相関をまとめたものが、表 2-8 である（数値は性別・年齢・学歴でコントロールした偏相関値）。ここでも文化的／政治的 NP 因子と愛国心因子は、興味深い相関傾向を示している。それらの因子スコアが高いほど、靖国公式参拝、憲法改正、国旗掲揚・国歌斉唱、愛国心教育に対してやはり賛成的であるのだが、一方で、韓国や中国への親近感もより高い傾向にある。パトリオティックな意識は必ずしも「嫌韓嫌中」に結びつくものではないということだ。このことからすれば、「ネット右翼」についても対外的な問題（「嫌韓嫌中」）にかかわるそれと、国内的な問題（憲法改正など）にかかわるそれでは、政治的態度・社会心理などの背景要因を区別して考える必要があるように思われる。

表 2-8. 「右傾性」にかかわる 5 因子と 7 指標の偏相関（性別・年齢・学歴でコントロール）

	移民排斥感情 因子	移民肯定評価 因子	文化的 NP 因子	政治的 NP 因子	愛国心因子
靖国公式参拝	.18***	-.10**	.11**	.15***	.29***
憲法 9 条 1 項改正	.10**	-.04	-.05	.12***	.22***
憲法 9 条 2 項改正	.11***	-.04	.03	.17***	.23***
国旗・国歌	.16***	-.05	.19***	.23***	.46***
愛国心教育	.18***	-.05	.15***	.24***	.58***
韓国（親近感）	-.16***	.29***	.05	.12***	.07*
中国（親近感）	-.20***	.21***	-.06	.13***	.03

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性

そこで、政治的態度・社会心理にかかわる諸項目と「右傾」7 指標との相関を分析してみた結果を、表 2-9 に示しておく。表中にある「孤独感」「公的自己意識」「一般的信頼」については、次のように尺度を構成した。

孤独感：改訂版 UCLA Loneliness Scale を参考に設問された「Q31-3. 私の興味や考えは、私のまわりの人たちとは違う」「Q31-9. 私には頼りにできる人がいない」「Q31-11. 私は自分のまわりの人たちとうまくいっている（逆転項目）」の 3 項目について、「あてはまる」～「あてはまらない」の 4 段階に 3～0 点を与えてリッカート加算。Cronbach の  $\alpha$  係数は .50。

公的自己意識：押見（1992）を参考に設問された「Q31-8. 人が自分のことをどう思っているか気になる」「Q31-10. 自分のふるまいが場違いではないかと気になることがある」「Q31-12. 何かするときには人の目を考慮する」の 3 項目についてリッカート加算。 $\alpha = .74$ 。

一般的信頼：山岸（1998）を参考に設問された「Q27-1. 世の中の多くの人は基本的に正直である」「Q27-3. 世の中の多くの人は信頼できる」「Q27-6. 世の中の多くの人は他人を信頼している」の 3 項目についてリッカート加算。 $\alpha = .73$ 。

ここで、国内的な項目と興味深い相関をみせているのは、「今の政治家には、強い個性や

キャラクターが何より重要だ」(Q37-5)である。そう思う者ほど、靖国参拝や憲法改正、愛国心教育などへの賛成度が高い。かつての小泉政権へのポピュリズム的支持を連想させる相関傾向である。

また、韓国・中国への親近感は、孤独感とは負の相関、一般的信頼とは正の相関を示している。つまり、身近な人間関係のなかで孤独を感じており、見知らぬ他者を信頼しない者ほど、韓国・中国に対して排外的な態度をとる傾向にあるということだ。表中には載せていないが、韓国・中国への親近感の低い者ほど、親しくつきあっている近所の人の数が少ない(性別・年齢・学歴でコントロールした偏相関係数で、韓  $r'=-.09$ 、中  $r'=-.11$ 、いずれも 0.1%水準で有意)。友人数とは無相関だが、「友達であっても、プライベートなことには深入りしたくない」という傾向も強い(韓  $r'=-.09$ 、中  $r'=-.08$ 、それぞれ 1%、5%水準で有意)。嫌韓嫌中の背後にあるのは、イデオロギー的なものよりも、身近な人間関係における孤独感であるのかもしれない。

表 2-9. 「右傾性」にかかわる 7 指標と政治的態度・社会心理の偏相関 (性別・年齢・学歴でコントロール)

	靖国公式 参拝	憲法 9 条 1 項改正	憲法 9 条 2 項改正	国旗・ 国歌	愛国心 教育	韓国 (親近感)	中国 (親近感)
Q37-1. 政治のことは難しく てよくわからない	.08*	.05	.03	-.04	-.04	.03	.05
Q37-2. 国民が選挙で投じた 「一票」は、現実の政治に反 映している	-.01	.06	.10**	.10**	.11**	.08*	.11***
Q37-3. 政治への参加を具体 的な行動であらわしたい	-.05	-.03	.03	.11***	.09**	-.02	.03
Q37-4. 政治的な主張の強い 人は、あまり好きになれない	-.03	.04	.00	-.03	-.05	.01	-.01
Q37-5. 今の政治家には、強い 個性やキャラクターが何よ り重要だ	.09**	.10**	.18***	.10**	.16***	.03	.03
Q37-6. 政治家は、もっとわか りやすい言葉で話すべきだ	.01	-.08*	-.04	.07*	.02	.00	-.14***
Q37-7. 市民の間で、もっと政 治的な議論をたたかわせる べきだ	-.03	.00	.03	.08*	.07*	-.01	-.07*
孤独感	-.02	-.01	.02	-.05	-.04	-.15***	-.08*
公的自己意識	.01	.00	-.01	.08*	.08*	.02	.00
一般的信頼	-.02	.01	.01	.05	.07*	.12***	.15***

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$  の有意性

### § 3. 「ネット右翼」的な層の推計と分析

以下では、今回の調査データを用いて「ネット右翼」的な層がどの程度のボリュームを有しているかを推計し、また、その層の属性などの特徴を試行的に分析する。

推計にあたっての最も大きな困難は、「ネット右翼」の定義・特徴づけが論者によってもまちまちであり、さほど明確ではないことである。そもそもが思想的・理論的な論脈での用語ではないこともあり、(少なくとも実証的分析の俎上にのせるためには) 具体的な現象面の特徴を最大公約数的に採って定義とせざるをえないところがある。

ここでは、その最大公約数的な特徴として、より具体的な態度・行動をたずねた次のような調査項目を採用し、本稿における「ネット右翼」的な層の操作的定義としたい。

- (a) 「韓国」「中国」いずれに対しても、親しみを感じない(「あまり」+「まったく」と回答している〈Q32-4,6〉)
- (b) 「首相や大臣の靖国神社への公式参拝」「憲法 9 条 1 項(戦争放棄)の改正」「憲法 9 条 2 項(軍隊・戦力の不保持)の改正」「小中学校の式典での国旗掲揚・国歌斉唱」「小中学校での愛国心教育」という 5 項目すべてに賛成(「賛成」+「やや賛成」と回答している〈Q38-1,2,3,9,10〉)
- (c) この 1 年ぐらいの間に、政治や社会の問題について、「自分のホームページに、意見や考えを書きこんだ」「他の人のブログに、自分の意見や考えをコメントした」「電子掲示板やメーリングリスト等で議論に参加した」という 3 項目のいずれかに、したことが「ある」と回答している〈Q36-10,11,12〉)

2005 年に出版された『マンガ嫌韓流』(山野車輪著、晋遊舎)が「それまでのネット右翼活動の集大成」ともみなされるように\*3、韓国および中国への反感は「ネット右翼」現象を彩る基本色と言ってもよいだろう。その韓国・中国への非親近感(a)が、ナショナリスティックな意識のなかに組みこまれているという限定をかけるのが、条件(b)である。

条件(c)については、あくまで「政治や社会の問題」一般についてネット上で書きこみや議論をおこなったかをたずねた設問であり、それが「ネット右翼」的な書きこみであったかまではむろん特定できない。いずれにせよ、これらの条件(a)~(c)による操作的定義は、恣意性と不完全さを原理的にまぬがれきれないものであり、以下でおこなわれる推計も、きわめて粗い概算によるひとつの目安値・参考値にすぎないことを、あらかじめ強調しておきたい。

今回の調査サンプルにおいて、各条件にあてはまる者の比率は次のとおりであった。

条件(a) : 「韓国」「中国」いずれにも親しみを感じない…36.8% (367 人)

条件(b) : 靖国公式参拝・憲法改正等の 5 項目すべてに賛成…6.4% (64 人)

条件(c) : 政治・社会問題についてネット上で書きこみや議論をした…15.2% (152 人)

これらすべての条件を満たす者、すなわち「ネット右翼」的な層の比率は 1.3%、実数で

\*3 ウィキペディア(日本版)の「ネット右翼」の項より引用(2008年3月30日アクセス)。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E5%8F%B3%E7%BF%BC>

は13人である。§1で紹介したように、今回の調査対象にはネットのヘビーユーザがかなり多いことを考慮に入れるならば、インターネット利用者全般を見渡した場合にはさらに比率は下がるものと推測される。おそらくは1%未満と見積もるのが適当だろう。

この「ネット右翼」的な層13人の基本属性は、男9人・女4人、20代前半2人・同後半4人・30代後半4人・40代前半3人だが、特徴をつかむには実数が少なすぎて分析に耐えない。そこで操作的定義の条件(b)をゆるめ、過半数の3項目以上に賛成の者にまで広げて(それでも31人にすぎないが)、もう少し分析を進めてみることにしよう。

この定義条件を緩和した「ネット右翼」的な層には、男性が多く、84%を占める(そうではない層と男女比を比較した $\chi^2$ 検定で $p<.001$ の有意差)。年齢については、20代前半16%・後半29%・30代前半13%・後半23%・40代前半19%と、大きな偏りはみられない(有意差なし)。学歴については、表3-1に示したように、「中学・高校」がやや多い傾向にある(在学中・既卒者ともに同カテゴリに含む)。 $\chi^2$ 検定で $p<.05$ の有意な差ではあるが、「大学・大学院」の比率はほぼ等しく、一概に低学歴ともいえない。また世帯年収についても、高低いずれかに偏るような有意な傾向は認められなかった。

表 3-1. (定義条件を緩和した)「ネット右翼」的な層の学歴/世帯年収

	中学・高校	短大・高専・ 専門学校	大学・大学院
「ネット右翼」的である層 (n= 31)	39%	13%	48%
ない層 (n=966)	22%	29%	49%

	400万円未満	400-800万円	800万円以上	わからない/ 答えたくない
「ネット右翼」的である層 (n= 31)	32%	35%	29%	3%
ない層 (n=967)	25%	41%	17%	17%

次に、ネットを含む各メディアの週あたりの平均利用時間\*4を比較したものが、表3-2である。いずれの時間量についてもt検定の結果では有意差はみられず、「ネット右翼」的な層が(今回の調査対象たる)ヘビーユーザの中でもさらにネットにのめり込んでいるユーザというわけではないことがわかる。

表 3-2. (定義条件を緩和した)「ネット右翼」的な層のメディア利用時間量

	Q4. ネット	Q1. テレビ	Q3. 新聞
「ネット右翼」的である層 (n= 31)	1419分	1204分	144分
ない層 (n=967)	1322分	1367分	135分

\*4 それぞれ平日×5+休日×2で計算した。ネット、テレビは同様に週5040分(84時間)を超える外れ値を5040分とした(5040分の値をとるのは、それぞれ全体の1.6%、1.5%)。新聞は「読んでいない」を0に換算し、週540分(9時間)を超える外れ値は540分とした(全体の2.1%)。ちなみに、新聞を「読んでいない」のは、「ネット右翼」的である層26%、ない層31%で、やはり有意差はない。

ただし、ブログや掲示板など個別のネット利用状況をみても、いくつかの特徴が浮かびあがってくる（以下では、「ネット右翼」的でない層を便宜的に対照群と呼ぶ）。

まず、ウェブの利用頻度については、「日に数回以上」が 90%にのぼる（Q6：対照群では 70%で、頻度に関する Wilcoxon の順位和検定で  $p<.05$  の有意差）。一方、パソコンでの平均メール送信数は週 50.0 通で、対照群 16.6 通より多い（Q7：Wilcoxon の順位和検定で  $p<.01$  の有意差）。友人への送信数は週 4.4 通（対照群 3.1 通、 $p<.01$ ）、家族への送信数は週 2.5 通である（対照群 1.5 通、 $p<.05$ ）。一方、携帯メールの送信数については有意差はみられなかった（Q17）。

ホームページの保有率は 23%で、対照群の 16%と有意差はないが、ブログの保有率は 58%と、対照群の 33%を大きく上回る（Q9： $\chi^2$ 検定で  $p<.01$  の有意差）。SNS サイト「mixi」の加入率は 58%で、対照群の 45%より高めだが、有意な差ではない（Q22）。利用頻度についても同様に有意差はみられない。

次に、オンラインゲーム、メッセージャー、掲示板等の 6 項目について（Q10）、「月 1 回くらい」以上利用するという割合を比較した結果が、表 3-3 である。

表 3-3. (定義条件を緩和した)「ネット右翼」的な層における各項目の「月 1 回」以上利用率

	「ネット右翼」的	
	ある層	ない層
Q10-1. オンラインゲーム	35%	21%
Q10-2. メッセージャー	23%	21%
-----		
Q10-3. 掲示板「2ちゃんねる」を読む	68%	> 45%
Q10-4. 掲示板「2ちゃんねる」に書きこむ	35%	>>> 9%
-----		
Q10-5. 「2ちゃんねる」以外の掲示板を読む	55%	51%
Q10-6. 「2ちゃんねる」以外の掲示板に書きこむ	29%	18%

Fisher の直接法により、>>>  $p<.001$ , >  $p<.05$  の有意差

有意差がみられたのは、「2ちゃんねる」を読む／に書きこむという 2 項目であり、いずれも「ネット右翼」的である層において比率が高い。「2ちゃんねる」を「ほぼ毎日」読む／書きこむという回答も、それぞれ 39%/16%に上っている。

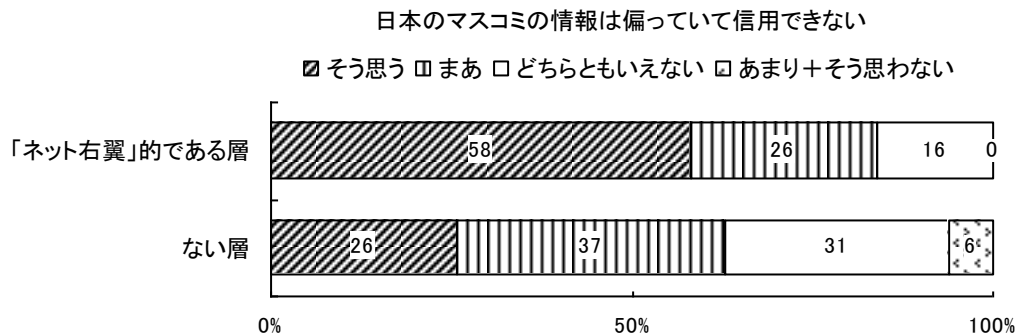
また、「2ちゃんねる」を読む者に限定して、どのような板を読むかをたずねているが（Q11）、Fisher の直接法で有意差が認められたのは、「政治・社会についての板（政治板やニュース極東板、ニュース速報+など）」のみであり、「ネット右翼」的な読者の 59%（対照群の「2ちゃんねる」読者では 38%）が読むと答えている。

一般論・印象論としても、しばしば「2ちゃんねる」が「ネット右翼」の中心的な活動の場であると指摘されるが、これらはそれと合致する結果といえるだろう。

つづいて、ネットに対する意識を比較していこう。「インターネット上の情報で、信用できるものは何割」くらいかについては（Q5）、回答の平均値は 5.6 割で、対照群の 5.2 割とあまり差はない。しかしながら、マスコミの情報に関しては、図 3-1 に示したように「偏っ

ていて信用できない」とする比率がかなり高い (Q34-7:  $\chi^2$ 検定で  $p < .001$  の有意差)。

図 3-1. (定義条件を緩和した)「ネット右翼」的な層におけるマスコミ情報の信用度



また、ネット上での攻撃的な発言やいわゆる「炎上」(ブログや掲示板などで起きるバッシングや悪口、誹謗中傷など)に対して、許容的な傾向にあることもうかがえる。表 3-4 は、その点に関連する 8 項目について比較をおこなった結果である。数値はそれぞれ「そう思う」4~「そう思わない」1 をあたえて得点化したときの平均スコアであり、有意差の検出には Wilcoxon の順位和検定を用いた。

ここにみられるように、「ネット右翼」的な層は、「ネットに人を傷つけるような情報が載るのはしかたない」「目立つことをしていれば、ネットで叩かれても当然」と考える傾向が強い。また、 $p < .10$  の参考水準の差にとどまるが、「過激な書きこみや発言があっても、たいてい冗談半分で、本気ではない」として、過激なメッセージをストレートに受けとめるのではなく、“ネタ”として楽しむような傾向も見受けられる。

表 3-4. (定義条件を緩和した)「ネット右翼」的な層におけるネットに対する意識

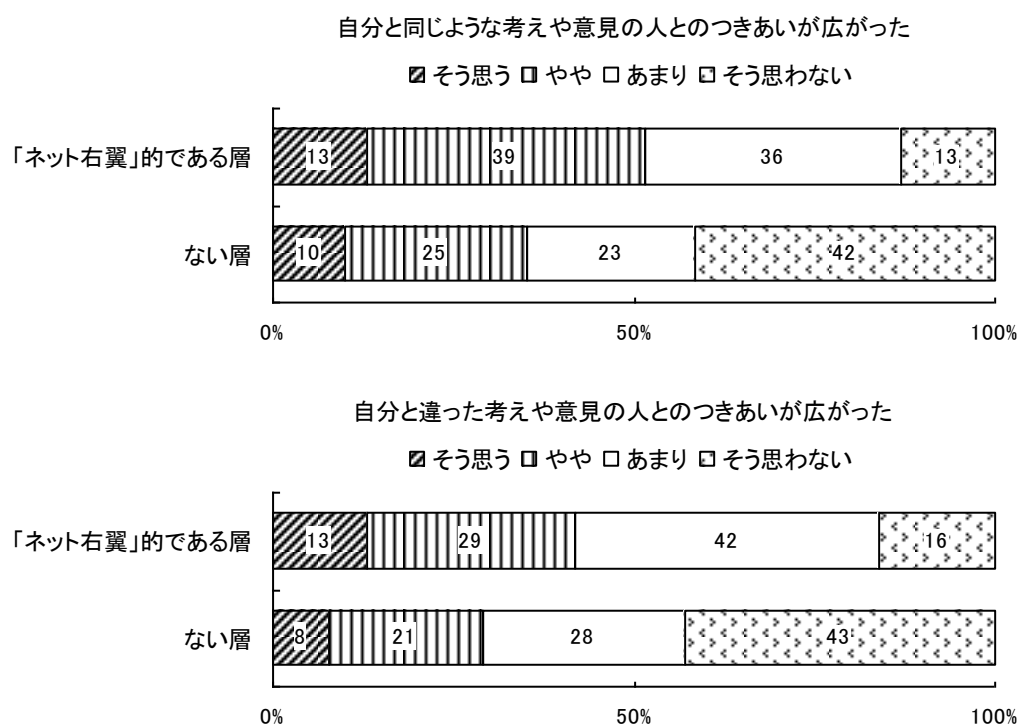
	「ネット右翼」的で	
	ある層	ない層
Q13-1. ネットでは人の本音や本当の姿があらわれやすい	2.90	2.73
Q13-2. ネットはあくまで見て楽しむもので、積極的に参加するようなものではない	2.32 (<)	2.53
Q13-3. ネット上の悪口などを、ただ見ているだけであれば悪いことではない	2.16	2.11
Q13-4. ネットに人を傷つけるような情報が載るのはしかたないことだ	2.61 >>	2.13
Q13-5. ネット上で過激な書きこみや発言があっても、たいてい冗談半分で、本気ではない	2.45 (>)	2.18
Q14-1. (炎上について)目立つことをしていれば、ネットで叩かれても当然だ	2.71 >	2.43
Q14-2. (炎上について)ネットで叩かれる側にも、叩かれるだけの理由がある	2.94 (>)	2.67
Q14-3. (炎上について)自分に関係のないものであれば、見ていておもしろい	2.23	2.06

>>  $p < .01$ , >  $p < .05$ , (>)  $p < .10$  の有意差

以上の分析結果は、「ネット右翼」について一般的に語られてきた特徴と合致しており、ここでおこなった「ネット右翼」的な層の操作的定義が、あながち的外れではないことを示唆するものと言えるだろう。

さて、この「ネット右翼」的な層には、Sunstein（2001=2003）のいうような集団成極化の影響がうかがえるだろうか？ ネットの効用に関する設問のうち、「自分と同じような考えや意見の人とのつきあいが広がった」「自分と違った考えや意見の人とのつきあいが広がった」という2項目を用いて（Q12-1,2）、この点を分析してみよう。ネット・コミュニケーションの成極化が作用していれば、前者（同じ考えや意見の人）の効用を高く評価し、後者（違った考えや意見の人）の評価が低いはずだ。結果は図3-2に示されるように、前者の評価が確かに高いものの、後者の評価も高く（いずれもWilcoxonの順位和検定で $p<.01$ の有意差）、成極化の影響可能性については限定的に認められるにとどまった\*5。

図3-2. (定義条件を緩和した)「ネット右翼」的な層におけるネットの効用評価



また、「ネット右翼」が（集団成極化に限らず）もっぱらネット利用によって思想的・イデオロギー的な影響を受けて形作られたものであるかどうかに関しては、次のような分析結果からも疑わしく思える点がある。表3-5は、「政治や社会の問題について」の活動状況をたずねた9項目それぞれについて、したことが「ある」率を比較分析したものだ。有意差はFisherの直接法によって検定した。ここにみられるように、署名運動、マスコミへの投書、献金・カンパ、集会出席、政党・団体紙誌の購読など、ネット上以外でのいわゆる「リアル」な活動も、「ネット右翼」的な層のほうが活発におこなっている。

このことからすれば、「ネット右翼」は、ネットに特有の現象というよりも、「リアル」

\*5 ただし、この点についてはQ12-1「自分と同じような考えや意見の人とのつきあいが広がった」とQ12-2「自分と違った考えや意見の人とのつきあいが広がった」の相関係数が $r=.84$ とかなり高いことが影響している。設問文中にある「(同じような/違った)考えや意見」という表現があいまいだったために、回答が分かれなかったのかもしれない。今後に向けて調査票設計上の課題としたい。

と地続きの現象であり、これまでは目につきにくかった「右翼」的な潜在層がネット上で可視化されたものととらえるのが適当かもしれない。

表 3-5. (定義条件を緩和した)「ネット右翼」的な層における政治・社会問題に関する行動

	「ネット右翼」的	
	ある層	ない層
Q36-1. デモに参加した	0%	1%
Q36-2. 署名運動に協力した	55%	>>> 24%
Q36-3. マスコミに投書した	16%	>> 3%
Q36-4. 献金・カンパした	29%	> 15%
Q36-5. 集会や会合に出席した	19%	>> 5%
Q36-6. 政党や団体の新聞・雑誌などを買って読んだ	19%	>>> 2%
Q36-7. 政党や団体の一員として活動した	3%	2%
Q36-8. 政党や団体のメールマガジンを読んだ	16%	> 6%
Q36-9. 政府や役所、政治家にメールを送った	10%	> 2%

>>> p<.001, >> p<.01, > p<.05 の有意差

ただし最後に注意をうながしておきたいのは、「ネット右翼」的な層が、右傾性にかかわる諸因子・諸指標の相関構造からすると特異な位置にあり、より一般的な右傾層あるいは右傾性を代表するものとはみなしにくいことである。§2 の表 2-8 でみたとおり、文化的／政治的ナショナル・プライド因子や愛国心因子など、パトリオティックな志向が高いほど、韓国や中国への親近感はむしろ高い——「愛国」は「嫌韓嫌中」に結びつかない——というのが一般的傾向であった。これに反して、「愛国」と「嫌韓嫌中」が一体化しているのが「ネット右翼」である（参考までに、右傾性 5 因子のスコアの比較結果を表 3-6 に示しておく）。

表 3-6. (定義条件を緩和した)「ネット右翼」的な層における「右傾性」5 因子のスコア

	「ネット右翼」的	
	ある層	ない層
移民排斥感情因子	0.60	>>> -0.02
移民肯定評価因子	-0.38	0.01
文化的 NP 因子	0.40	> -0.01
政治的 NP 因子	0.51	>> -0.02
愛国心因子	0.75	>>> -0.02

t 検定により、>>> p<.001, >> p<.01, > p<.05 の有意差

したがって、「ネット右翼」的な層の分析のみによっては、必ずしも右傾性とネット利用との関連が十分に明らかにされるわけではない。そこで次節では、より一般的な右傾性 5 因子に表される政治的態度と、ネットの利用行動・意識等との関連を分析していくことにしよう。



#### § 4. 右傾性因子とネット利用行動等の関連

この節では、§ 2 で抽出した右傾性 5 因子を中心として、ネットの利用行動・意識等との関連を分析する。

まず、ネット・テレビ・新聞の各メディア利用時間\*6および諸属性と、右傾性との関連をみてみよう。表 4-1 は右傾性各因子を従属変数とした重回帰分析の結果である。ネット利用時間が多いほど、移民排斥感情が強く、愛国心が低いという関連がみられる。テレビ視聴時間は文化的ナショナル・プライドと愛国心、新聞講読時間は移民肯定評価と、それぞれ正の関連を示している。なお、参考までに単純相関の一覧を、表 4-2 に示す。

表 4-1. 右傾性 5 因子に関する重回帰分析の結果（数値は標準化後のβ）

	移民排斥感情	移民肯定評価	文化的 NP	政治的 NP	愛国心
ネット利用時間	.09*	-.06	-.05	-.04	-.09**
テレビ視聴時間	-.01	-.05	.08*	.02	.07*
新聞講読時間	.00	.08*	.03	-.01	.02
性別（男=1, 女=2）	-.08*	.03	.05	-.02	-.08*
年齢	.08*	-.10**	-.07	-.01	.07
学歴	-.05	.03	.16***	.09*	.06
世帯年収	-.03	.05	.03	.07*	.09*
調整済み R <sup>2</sup>	.02**	.02**	.03***	.01*	.03***

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性（N=835）

表 4-2. 右傾性 5 因子とメディア利用時間量および属性との相関

	移民排斥感情	移民肯定評価	文化的 NP	政治的 NP	愛国心
ネット利用時間	.07*	-.06	-.06	-.05	-.08**
テレビ視聴時間	.00	-.06	.05	-.03	.03
新聞講読時間	.02	.09**	.01	.01	.07*
性別（男=1, 女=2）	-.10**	-.01	.05	-.02	-.07*
年齢	.09**	-.07*	-.10**	-.03	.08*
学歴	-.07*	.08*	.12***	.09**	.03
世帯年収	-.02	.05	.03	.08*	.10**

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性（N=998, 世帯年収との相関のみ N=835）

次に、ウェブ、メール、掲示板など、ネット利用の詳細項目と右傾性因子との関連をみてみよう。表 4-3 に示したのは、性別・年齢・学歴・世帯年収でコントロールした偏相関係数であり、表 4-4 は単純相関係数である。

\*6 各メディアの利用時間量については注 4 の処理をおこなった変数を用いた。

表 4-4. 右傾性 5 因子とネット利用諸項目との偏相関 (性別・年齢・学歴・世帯年収でコントロール)

	移民排斥感情	移民肯定評価	文化的 NP	政治的 NP	愛国心
Q6. ウェブ利用頻度	.01	.03	.02	.01	-.01
Q7-2. 友人へのメール送信数	.03	.00	-.02	.04	.02
Q7-3. 家族へのメール送信数	.02	.01	.00	.00	.01
Q22. mixi 利用頻度	-.01	.03	-.03	.01	-.02
Q9-1. ホームページ保有	-.01	-.02	-.04	-.03	-.10**
Q9-2. ブログ保有	-.02	.02	-.01	-.02	-.02
Q10-1. オンラインゲーム利用頻度	-.06	.06	.05	.03	-.01
Q10-2. メッセンジャー利用頻度	.05	.00	.00	.07	.01
Q10-3. 「2ちゃんねる」を読む頻度	.13***	-.12***	.05	.07	-.02
Q10-4. 「2ちゃんねる」に書きこむ頻度	.08*	-.09**	.03	.06	.01
Q10-5. 以外の掲示板を読む頻度	.07	-.01	.08*	.06	.00
Q10-6. 以外の掲示板に書きこむ頻度	.04	.00	.04	.06	.00

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性 (N=835)

表 4-5. 右傾性 5 因子とネット利用諸項目との単純相関

	移民排斥感情	移民肯定評価	文化的 NP	政治的 NP	愛国心
Q6. ウェブ利用頻度	.02	.04	.02	.02	.01
Q7-2. 友人へのメール送信数	.04	.00	-.03	.04	.03
Q7-3. 家族へのメール送信数	.03	.00	-.01	.00	.02
Q22. mixi 利用頻度	-.05	.06	.01	.03	-.03
Q9-1. ホームページ保有	-.01	-.01	-.03	-.02	-.09**
Q9-2. ブログ保有	-.03	.03	.01	-.01	-.03
Q10-1. オンラインゲーム利用頻度	-.05	.06	.04	.03	-.01
Q10-2. メッセンジャー利用頻度	.05	.02	.01	.07*	.01
Q10-3. 「2ちゃんねる」を読む頻度	.12***	-.10**	.06	.08*	-.01
Q10-4. 「2ちゃんねる」に書きこむ頻度	.07*	-.07*	.04	.07*	.01
Q10-5. 以外の掲示板を読む頻度	.07*	.00	.08**	.07*	.02
Q10-6. 以外の掲示板に書きこむ頻度	.04	.01	.04	.06**	.00

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性 (N=998)

諸属性をコントロールしても有意な相関が顕著に認められるのは、やはり「2ちゃんねる」を読む・書きこむ頻度であり、その頻度が高いほど、移民排斥感情が強く、移民肯定評価が低い、つまり排外的な傾向にある。また、「2ちゃんねる」を読む頻度は、インターネット利用時間と単純相関で  $r=.25$ 、性別・年齢・学歴・世帯年収をコントロールした偏相

関でも  $r'=.24$  の、正相関を示す（いずれも 0.1%水準で有意）。

そこで、先の表 4-1 でみた重回帰分析の独立変数に、「2ちゃんねる」を読む頻度を追加投入してみた。その結果が、表 4-6 である。ここからは、ネット利用時間そのものよりも、「2ちゃんねる」利用のほうが右傾性因子に関連していることがわかる。「2ちゃんねる」利用は、移民排斥感情の強さと移民肯定評価の低さ、ナショナル・プライドの高さに結びつく傾向にある。

表 4-6. 「2ちゃんねる」を読む頻度を独立変数に追加した重回帰分析の結果（数値は標準化後の $\beta$ ）

	移民排斥感情	移民肯定評価	文化的 NP	政治的 NP	愛国心
ネット利用時間	.07	-.03	-.07*	-.06	-.09*
テレビ視聴時間	-.01	-.04	.08*	.02	.07*
新聞講読時間	.00	.08*	.03	-.01	.02
「2ちゃんねる」	.09*	-.11***	.07*	.08*	.00
性別（男=1, 女=2）	-.07*	.02	.06	.00	-.08*
年齢	.09*	-.11**	-.07	-.01	.07
学歴	-.06	.04	.15***	.09*	.06
世帯年収	-.04	.06	.03	.07	.09*
調整済み R <sup>2</sup>	.02***	.03***	.04***	.01*	.02***

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性（N=835）

また表 4-7 に示されるように、「2ちゃんねる」を読む者のなかでも、とりわけ「政治・社会についての板（政治板やニュース極東板、ニュース速報+など）」（Q11-1）を読む者は、移民排斥感情が強い。

表 4-7. 「2ちゃんねる」読者における読む板の種類と右傾性 5 因子との相関

（読む=1, 読まない=0）	移民排斥感情	移民肯定評価	文化的 NP	政治的 NP	愛国心
Q11-1. 政治・社会についての板	.09*	.03	.03	.06	.04
Q11-2. 趣味についての板	.00	.06	.03	.02	.01
Q11-3. テレビや芸能についての板	.05	-.02	.04	.03	.05

\* p<.05 の有意性（N=653）

つづいて、ネットの関係拡大効用（Q12）、ネット観（Q13）、ネット上の「炎上」に対する態度（Q14）と右傾性因子との偏相関値を、表 4-8 に示す。関係拡大効用を感じている者ほど、移民肯定評価が高い傾向がみられる。また、「ネット上の悪口などを、ただ見ているだけであれば悪いことではない」という傍観者の態度が強いほど、移民排斥感情、政治的ナショナル・プライドが高い。ネット上の「炎上」に対しては、許容的な態度をとる者ほど、概して移民排斥感情が強く、移民肯定評価が低い、愛国心が高い、という排外的なナショナリズムと親和的な相関傾向が認められる。

表 4-8. 右傾性 5 因子とネット効用などの偏相関（性別・年齢・学歴・世帯年収でコントロール）

	移民排斥感情	移民肯定評価	文化的 NP	政治的 NP	愛国心
Q12-1. 自分と違った考えや意見の人とのつきあいが広がった	.06	.09*	.04	.08*	.03
Q12-2. 自分と同じような考えや意見の人とのつきあいが広がった	.07*	.10**	.08*	.07*	.05
Q12-3. 自分と同じような趣味や関心の人とのつきあいが広がった	.04	.11***	.08*	.05	.02
Q12-4. 自分と違った年齢・世代の人とのつきあいが広がった	.04	.10**	.02	.04	.03
Q12-5. 自分と違った職業の人とのつきあいが広がった	.05	.09**	.01	.03	.02
Q13-1. ネットでは人の本音や本当の姿があらわれやすい	.10**	.07*	.13***	.06	.09**
Q13-2. あくまで見て楽しむもので、積極的に参加するようなものではない	.07*	-.02	.02	.04	.05
Q13-3. ネット上の悪口などを、ただ見ているだけであれば悪いことではない	.10**	-.04	.01	.07*	.05
Q13-4. 人を傷つけるような情報が載るのはしかたないことだ	.06	.00	.01	.06	-.06
Q13-5. 過激な書きこみや発言があっても、たいてい冗談半分で、本気ではない	.05	.01	.03	.10**	.01
Q14-1. 目立つことをしていれば、ネットで叩かれても当然だ	.20***	-.07*	.00	.02	.09**
Q14-2. ネットで叩かれる側にも、叩かれるだけの理由がある	.19***	-.03	.05	-.02	.09**
Q14-3. 自分に関係のないものであれば、見ていておもしろい	.15***	-.11**	-.05	.08*	.06

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性 (N=835)

これらのネット関係拡大効用、ネット観、「炎上」に対する態度と、ネット利用時間量、「2ちゃんねる」およびそれ以外の掲示板を読む頻度、ブログ保有の有無、mixi の利用頻度との偏相関係数を一覧したものが、表 4-9 である。いずれもネット利用項目も、関係拡大効用とは正の相関を示している。なかでも、ブログ保有と mixi 利用頻度の相関値が比較的高い。一方で、掲示板を読む——とりわけ「2ちゃんねる」を読む——頻度が高いほど、「ネット上の悪口などを、ただ見ているだけであれば悪いことではない」「ネットに人を傷つけるような情報が載るのはしかたないことだ」「ネット上で過激な書きこみや発言があっても、たいてい冗談半分で、本気ではない」など、悪口や過激な書きこみに対して許容的であり、ネット上での「炎上」に対しても、「目立つことをしていれば叩かれても当然」「叩かれる側にも、叩かれるだけの理由がある」「自分に関係のないものであれば、見ていておもしろい」というように許容度が高い。ブログ保有や mixi の利用頻度は、これら「炎上」に対する許容度とは無相関である。

表 4-9. ネット利用とネット効用などとの偏相関 (性別・年齢・学歴・世帯年収でコントロール)

	ネット 利用時間	「2ちゃんねる」 読む頻度	以外の 掲示板 読む頻度	ブログ 保有	mixi 利用頻度
Q12-1. 自分と違った考えや意見の人とのつきあいが広がった	.16***	.21***	.23***	.22***	.27***
Q12-2. 自分と同じような考えや意見の人とのつきあいが広がった	.18***	.18***	.24***	.25***	.29***
Q12-3. 自分と同じような趣味や関心の人とのつきあいが広がった	.20***	.17***	.23***	.28***	.30***
Q12-4. 自分と違った年齢・世代の人とのつきあいが広がった	.19***	.19***	.25***	.25***	.28***
Q12-5. 自分と違った職業の人とのつきあいが広がった	.16***	.17***	.23***	.25***	.29***
Q13-1. ネットでは人の本音や本当の姿があらわれやすい	.09**	.15***	.12***	.07*	.06
Q13-2. あくまで見て楽しむもので、積極的に参加するようなものではない	-.11**	-.08*	-.01	-.19***	-.08*
Q13-3. ネット上の悪口などを、ただ見ていられれば悪いことではない	.08*	.18***	.15***	.04	-.01
Q13-4. 人を傷つけるような情報が載るのはしかたないことだ	.11**	.23***	.19***	.11**	.09*
Q13-5. 過激な書きこみや発言があっても、たいてい冗談半分で、本気ではない	.06	.17***	.15***	.02	-.02
Q14-1. 目立つことをしていれば、ネットで叩かれても当然だ	.13***	.13***	.10**	.06	.05
Q14-2. ネットで叩かれる側にも、叩かれるだけの理由がある	.13***	.16***	.10**	.04	.01
Q14-3. 自分に関係のないものであれば、見ていておもしろい	.04	.19***	.16***	-.03	.01

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性 (N=835)

以上の分析結果をまとめておこう。表 4-4 の偏相関分析によれば、ネットの諸利用項目のなかでも、「2ちゃんねる」の利用のみが排外性（移民排斥感情の高さと移民肯定評価の低さ）と有意に関連していた。また、表 4-6 の重回帰分析によれば、「2ちゃんねる」の利用は排外性 2 因子に加えて、政治的、文化的ナショナル・プライドの高さとも有意に関連しており、排外的ナショナリズム傾向との結びつきが認められる。一方、この重回帰分析において独立変数の 1 つであるネット利用時間量が有意な関連を示さないことから、ネット利用全般というよりも、特に「2ちゃんねる」利用が排外的ナショナリズムと関連していることが示唆される。また表 4-9 に示されるように、「2ちゃんねる」の利用は、ネット上の悪口や過激な書きこみ、「炎上」に対して許容的な態度とも有意に関連している。

「2ちゃんねる」を媒介にした、排外性と攻撃的発言・書きこみの許容との結びつき。それがやはり、日本のネット「右傾化」現象の中核をなしていると言えるだろう。

## § 5. 右傾性因子を用いたクラスタ分析によるケースの類型化

この節では、右傾性 5 因子のスコアを用いたクラスタ分析によって、ケース（標本）を分類・類型化し、それぞれのクラスタにおけるメディア利用や社会心理傾向等の特徴を分析していく。

ケースの分類にあたっては、SPSS の「大規模ファイルのクラスタ分析」のプロシジャ (k 平均クラスタ分析のアルゴリズムによる) を用いた。クラスタ数の設定を 2～5 まで変えて探索的に分析をおこない、クラスタ数を 3 とした場合の結果を用いることとした (反復回数 13 回で収束)。各クラスタの因子スコア平均値は、表 5-1 のとおりである。

表 5-1. 右傾性因子スコアを用いたクラスタ分析の結果 (N=998)

	第 1 クラスタ	第 2 クラスタ	第 3 クラスタ	
移民排斥感情	-0.62	0.67	-0.10	(p<.001)
移民肯定評価	0.66	-0.30	-0.48	(p<.001)
文化的ナショナル・プライド	0.38	0.37	-1.08	(p<.001)
政治的ナショナル・プライド	-0.05	0.64	-0.85	(p<.001)
愛国心	-0.05	0.66	-0.89	(p<.001)
ケース数	363	375	260	
性別 (男性率)	44%	54%	50%	(p<.05)
平均年齢	31.6 歳	32.3 歳	32.3 歳	(n. s.)
学歴 (大卒率)	53%	49%	42%	(p<.05)
世帯年収 (600 万以上の率)	41%	41%	38%	(n. s.)

第 1 クラスタは、移民排斥感情が低く、移民肯定評価が高いことで特徴づけられる。文化的 NP はやや高め、第 2 クラスタと同程度だが、政治的 NP と愛国心はほぼ平均値である。低い排外性と中程度の愛国性をもったグループと言える。基本属性としては女性が多く、やや高学歴の傾向にある。

第 2 クラスタは、移民排斥感情が高く、移民肯定評価がやや低い。文化的／政治的ナショナル・プライド、愛国心が高い。高い排外性と高い愛国性をもった、「排外的ナショナリズム」色の強いグループである。基本属性としては男性が多いことが特徴である。

第 3 クラスタは、移民排斥感情は高くないものの、移民肯定評価は低い。文化的／政治的ナショナル・プライド、愛国心も低い。中程度の排外性と低い愛国性で特徴づけられるグループである。基本属性面では、やや低学歴の傾向にある。

これら 3 つのクラスタのあいだで、メディア利用時間とネット利用諸項目を比較したものが、表 5-2 である (ウェブ・オンラインゲーム・メッセージャー・「2ちゃんねる」・それ以外の掲示板の各利用頻度については、頻度の低い選択肢を 0 点とし、頻度が上がる順に 1 点を加えた順位スコアの平均値を掲載してある。有意差の検定には Kruskal-Wallis の順位和検定を用いた)。メディア利用時間についてはクラスタ間でさほど際だった差がみられないが、第 3 クラスタで新聞講読時間が少ないことがひとつの特

徴である。ネット利用諸項目については、「2ちゃんねる」に書きこむ頻度が、第2クラス  
タで最も高く、第1クラスで最も低い。これは各クラスタの排外性の高低と連動したも  
のだろう（表4-4を参照）。

表5-2. クラスタ間でのメディア利用時間・ネット利用諸項目の比較

	第1クラスタ (排外=低) (愛国=中)	第2クラスタ (排外=高) (愛国=高)	第3クラスタ (排外=中) (愛国=低)	
テレビ視聴時間	1389分	1321分	1385分	(n. s.)
新聞講読時間	139分	146分	115分	(p<.05)
ネット利用時間	1280分	1289分	1442分	(n. s.)
Q6. ウェブ利用頻度	3.60	3.61	3.55	(n. s.)
Q7-2. 友人へのメール送信数	2.4通	3.9通	3.1通	(p<.05)
Q7-3. 家族へのメール送信数	1.3通	1.9通	1.4通	(n. s.)
Q9-1. ホームページ保有	16%	14%	19%	(n. s.)
Q9-2. ブログ保有	36%	32%	32%	(n. s.)
Q22. mixi 利用	45%	45%	47%	(n. s.)
Q10-1. オンラインゲーム利用頻度	1.21	1.09	0.96	(p<.05)
Q10-2. メッセンジャー利用頻度	1.08	1.19	0.89	(n. s.)
Q10-3. 「2ちゃんねる」を読む頻度	1.85	2.22	2.16	(n. s.)
Q10-4. 「2ちゃんねる」に書きこむ頻度	0.35	0.73	0.50	(p<.01)
Q10-5. 以外の掲示板を読む頻度	2.42	2.58	2.22	(n. s.)
Q10-6. 以外の掲示板に書きこむ頻度	0.94	0.97	0.80	(p<.05)

次に、政治的諸態度を比較した結果を、表5-3に示す（数値は「そう思う」3点～「そう思わ  
ない」0点を与えた順位スコアの平均値。有意差の検定にはKruskal-Wallisの順位和検定を用いた）。

第2クラスタは「今の政治家には、強い個性やキャラクターが重要」への肯定度が高い。  
排外的ナショナリスト層と、小泉元首相のような「強い個性やキャラクター」を備えた政  
治家との親和性をうかがわせる結果である。

第1クラスタについては「政治家は、もっとわかりやすい言葉で話すべき」の肯定度  
が高いことが特徴である。

第3クラスタは、「一票」は現実の政治に反映している」という投票の有効性感覚が低  
く、また、「政治への参加を具体的な行動であらわしたい」「市民の間で、もっと政治的な  
議論をたたかわせるべき」という政治への積極性も低い。これらの態度（の強さ）は、表  
5-4に示すとおり、ナショナル・プライドや愛国心（の高さ）とも結びついている。ここ  
から推測されるのは、第3クラスタは概して政治や社会に対して関与度(commitment)の低い  
層であり、そのことが一方ではナショナル・プライドや愛国心の低さとなってあらわれ、  
他方では政治への消極的態度となってあらわれているのではないかということだ。

表 5-3. クラスタ間での政治的諸態度の比較

	第1クラスタ (排外=低) (愛国=中)	第2クラスタ (排外=高) (愛国=高)	第3クラスタ (排外=中) (愛国=低)	
Q37-1. 政治のことは難しくてよくわからない	1.42	1.40	1.46	(n. s.)
Q37-2. 国民が選挙で投じた「一票」は、現実の政治に反映している	1.06	1.18	0.79	(p<.001)
Q37-3. 政治への参加を具体的な行動であらわしたい	1.22	1.34	1.03	(p<.001)
Q37-4. 政治的な主張の強い人は、あまり好きになれない	1.23	1.19	1.32	(n. s.)
Q37-5. 今の政治家には、強い個性やキャラクターが何より重要だ	0.99	1.14	0.92	(p<.01)
Q37-6. 政治家は、もっとわかりやすい言葉で話すべきだ	2.26	2.13	2.02	(p<.01)
Q37-7. 市民の間で、もっと政治的な議論をたたかわせるべきだ	1.94	1.91	1.60	(p<.001)

表 5-4. 右傾性 5 因子と政治的諸態度との相関

	移民排斥 感情	移民肯定 評価	文化的 NP	政治的 NP	愛国心
Q37-1. 政治のことは難しくてよくわからない	.02	-.01	-.05	-.02	-.02
Q37-2. 国民が選挙で投じた「一票」は、現実の政治に反映している	-.02	.08**	.11***	.24***	.17***
Q37-3. 政治への参加を具体的な行動であらわしたい	.06*	.07*	.12***	.10**	.14***
Q37-4. 政治的な主張の強い人は、あまり好きになれない	.03	-.03	-.05	-.10**	-.06
Q37-5. 今の政治家には、強い個性やキャラクターが何より重要だ	.04	.06	.03	.07*	.18***
Q37-6. 政治家は、もっとわかりやすい言葉で話すべきだ	.08*	.12***	.15***	-.13***	.06
Q37-7. 市民の間で、もっと政治的な議論をたたかわせるべきだ	.05	.18***	.20***	-.02	.15***

\*\*\* p&lt;.001, \*\* p&lt;.01, \* p&lt;.05 の有意性

第3クラスタにおいて政治的・社会的なコミットメントが低いことは、表 5-5 に示した結果からもうかがえる。表中の数値は、政治的・政策的問題について賛否を訊ねた 10 設問それぞれについて、「どちらでもない」または「わからない」と答えた比率である（「答えない」は欠損値として扱い、残りの全回答を 100%とした）。これらの態度留保的な回答を選択した比率は、10 項目すべてにおいて第3クラスタで最も高い。

別の設問でみても、この1年間に「署名運動に協力した」(Q36-2) ことのある割合は、第1・第2・第3クラスタの順に 27%・28%・19%で、「献金・カンパした」(Q36-4) 割合は 16%・



18%・10%と、やはり第3クラスタで最も低い（いずれも $\chi^2$ 検定で $p<.05$ の有意差）。

表 5-5. 政策的項目に「どちらでもない」または「わからない」と答えた比率の比較

	第1クラスタ (排外=低) (愛国=中)	第2クラスタ (排外=高) (愛国=高)	第3クラスタ (排外=中) (愛国=低)	
Q38-1. 首相や大臣の靖国神社への公式参拝	44% [36%: 8%]	37% [31%: 6%]	58% [46%: 12%]	( $p<.001$ )
Q38-2. 憲法9条1項（戦争放棄）の改正	19% [13%: 6%]	30% [23%: 7%]	38% [28%: 10%]	( $p<.001$ )
Q38-3. 憲法9条2項（軍隊・戦力の不保持）の改正	24% [18%: 6%]	34% [26%: 9%]	44% [33%: 11%]	( $p<.001$ )
Q38-4. 夫婦別姓	42% [39%: 3%]	43% [39%: 4%]	53% [45%: 8%]	( $p<.05$ )
Q38-5. 死刑制度の廃止	22% [19%: 3%]	17% [14%: 3%]	30% [23%: 7%]	( $p<.001$ )
Q38-6. 少年犯罪に対する厳罰化	7% [ 6%: 1%]	12% [10%: 2%]	22% [17%: 5%]	( $p<.001$ )
Q38-7. 犯罪歴のある人物の住所・氏名などの公開	24% [22%: 2%]	26% [22%: 4%]	35% [28%: 7%]	( $p<.05$ )
Q38-8. 裁判員制度（一般市民の司法参加）	32% [29%: 3%]	37% [33%: 4%]	43% [36%: 7%]	( $p<.05$ )
Q38-9. 小中学校の式典での国旗掲揚・国歌斉唱	46% [43%: 4%]	41% [37%: 4%]	58% [51%: 6%]	( $p<.001$ )
Q38-10. 小中学校での愛国心教育	41% [37%: 4%]	41% [37%: 4%]	54% [47%: 7%]	( $p<.01$ )

各セルの下段括弧内の数値は、左が「どちらでもない」、右が「わからない」の選択率

つづいて、社会・政治参加や社会的な協力行動に関する5項目について、クラスタ間の比較をおこなった結果が、表5-6である（数値は「あてはまる」3点～「あてはまらない」0点を与えた順位スコアの平均値。有意差の検定にはKruskal-Wallisの順位和検定を用いた）。

表 5-6. 社会参加等に関する5項目の比較

	第1クラスタ (排外=低) (愛国=中)	第2クラスタ (排外=高) (愛国=高)	第3クラスタ (排外=中) (愛国=低)	
Q25-1. ゴミはいつもきちんと分別して捨てるようにしている	2.45	2.36	2.20	( $p<.001$ )
Q25-2. 選挙にはできるだけ投票に行くようにしている	2.12	2.15	1.76	( $p<.001$ )
Q25-3. お年寄りや赤ちゃんを連れた人には、なるべく席をゆずるようにしている	2.17	2.24	1.95	( $p<.001$ )
Q25-4. 地域の行事や活動には、なるべく参加しているようにしている	1.13	1.28	0.87	( $p<.001$ )
Q25-5. 信頼できる募金活動であれば、なるべくお金を出すようにしている	1.24	1.39	1.02	( $p<.001$ )

ここでも第3クラスは、すべての項目において参加や協力行動に消極的である。

また、図5-1のとおり、ボランティア活動についても(Q26)、「現在参加している」+「過去に参加したことがある」という割合は第3クラスで最も低く、逆に「参加したことはなく、参加してみたいとも思わない」割合は最も高くなっている。

図5-1. ボランティア活動への参加経験・参加意向の比較

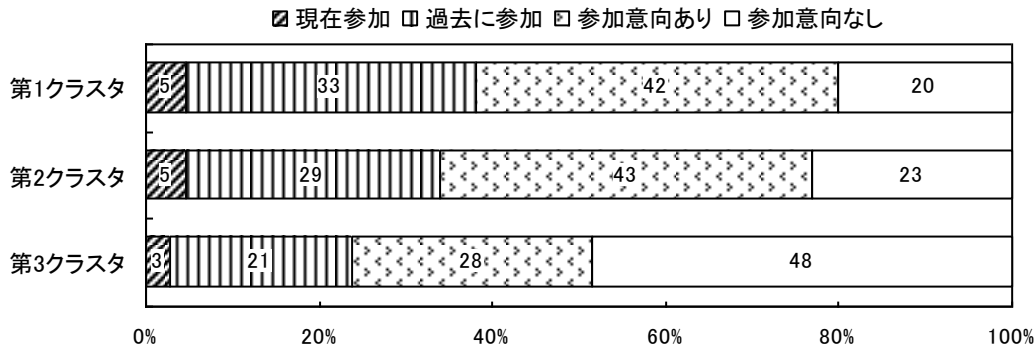


表5-7は、親しくつきあっている近所の人や友達の数(Q29)\*7、および対人的社会心理傾向\*8を比較した結果だが、第3クラスは、近距離の友人・遠距離の友人ともに最も少ない。また、一般的信頼、公的自己意識は最も低く、孤独感は最も高い。第3クラスは、対人関係面でも不活発な傾向にあると言えるだろう。

表5-7. 対人関係・対人社会心理傾向の比較

	第1クラス (排外=低) (愛国=中)	第2クラス (排外=高) (愛国=高)	第3クラス (排外=中) (愛国=低)	
親しい近所の人	2.72人	2.61人	2.18人	(n. s.)
1時間以内で会える友人の数	5.26人	5.34人	3.51人	(p<.001)
1時間以上かかる友人の数	5.92人	5.30人	4.12人	(p<.01)
一般的信頼	4.20	4.22	3.37	(p<.001)
公的自己意識	5.18	5.13	4.70	(p<.01)
孤独感	3.73	3.78	4.24	(p<.001)

参考までに、右傾性5因子とこれら対人関係項目との相関値を、表5-8に示しておく。ナショナル・プライドや愛国心の高さは、概して、友人数の多さや一般的信頼の高さ、孤独感の低さと結びついている。第3クラスは、これらナショナル・プライドや愛国心が低いため、それによって対人関係の不活発さを説明できる部分もある。

\*7 親しくつきあっている近所の人、会いに行くのに1時間以内で会える友達、会いに行くのに1時間以上かかる友達、いずれも30人を超える外れ値は30人とした。

\*8 それぞれの尺度構成については§2を参照。

表 5-8. 右傾性 5 因子と対人関係・対人社会心理傾向との相関

	移民排斥 感情	移民肯定 評価	文化的 NP	政治的 NP	愛国心
親しい近所の人の数	.00	.09**	-.01	.04	.08**
1 時間以内で会える友人の数	-.01	.12***	.12***	.10**	.13***
1 時間以上かかる友人の数	-.01	.09**	.09**	.09**	.03
-----					
一般的信頼	-.08*	.16***	.16***	.30***	.23***
公的自己意識	.02	.10**	.12***	.06	.08**
孤独感	.10**	-.08*	-.14***	-.16***	-.13***

\*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05 の有意性

以上おこなってきたクラスタ間の比較分析から言えるのは、とりわけ第 3 クラスタに特徴的な傾向がみられることであり、その特徴とは、政治から対人関係にわたって社会的なコミットメント全般が低調・不活発であることだ。第 1 クラスタと第 2 クラスタが、社会的コミットメントを基盤として、排外的ナショナリズムか否かといった政治的・イデオロギー的な対立をみせているのに対し、第 3 クラスタは、その政治的・イデオロギー的な対立の土俵自体にコミットしないと言ってもよいだろう。今後の研究においては、政治的な右／左の対立軸だけでなく、社会的コミットメントの高／低、あるいは政治的／脱 - 政治的という軸を加えて、分析の構図をふくらませる必要があるように思われる。

## 参考文献

- 遠藤薫, 2007, 『間メディア社会と〈世論〉形成』東京電機大学出版局.
- 北田暁大, 2003, 「ネット世論 嗤う日本のナショナリズム——「2ちゃんねる」にみるアイロニズムとロマン主義」『世界』720号(11月号).
- 近藤瑠漫・谷崎晃編, 2007, 『ネット右翼とサブカル民主主義——マイデモクラシー症候群』三一書房.
- 押見輝男, 1992, 『自分を見つめる自分』サイエンス社.
- 佐藤哲也・杉岡賢治・内藤孝一, 2003, 「インターネット利用者の政治意識」『日本社会情報学会学会誌』15巻2号, pp.27-38.
- Sunstein, Cass, 2001, *Republic.com*, New Jersey: Princeton University Press. (=2003, 石川幸憲訳『インターネットは民主主義の敵か』毎日新聞社.)
- 田辺俊介, 2008, 「「日本人」であるとはいかなることか」, 南田勝也・辻泉編『文化社会学の視座』ミネルヴァ書房.
- Wallace, Patricia, 1999, *The Psychology of the Internet*, Cambridge, UK: Cambridge University Press. (=2001, 川浦康至・貝塚泉訳『インターネットの心理学』NTT出版.)
- 山岸俊男, 1998, 『信頼の構造』東京大学出版会.
- 財団法人インターネット協会, 2007, 『インターネット白書 2007』インプレス R&D.

## 社会意識に関する調査

下記アンケートにご協力お願いいたします。

このアンケートは 20 歳～44 歳の人々のコミュニケーションやメディア利用行動、および政治・社会意識を把握するために実施されるものです。データは全員の回答について、コンピュータを使って統計学的に処理します。各個人についての分析はまったく行いませんし、個人のデータが公表されることも絶対にありません。

本アンケートでは、社会、政治に関する質問など社会的、政治的思想に関わる内容をお伺いすることがございます。本アンケートの趣旨にご同意いただける方のみご回答ください。なお、本アンケートにお答えできない方は、アンケートページのブラウザを閉じていただいで結構です。

Q1 あなたはふだん、1日にどれくらいテレビを見ていますか？

平日と休日に分けてお答えください。(見ない場合は、0時間0分とご記入ください)

平日1日に [ ] 時間 [ ] 分くらい      平均 178 分 (SD=149)   中央値 120 分  
休日1日に [ ] 時間 [ ] 分くらい      平均 241 分 (SD=160)   中央値 210 分

Q2 あなたがふだん読んでいる新聞を、いくつでもお選びください。

※ スポーツ紙は含みません。

※ 購入はしていなくても、かまいません。

※ インターネット上の新聞社サイトやニュースサイトなどに掲載(アップ)された記事を読むのは、含みません。

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 読売新聞    19.6 | <input type="checkbox"/> 5. 日経新聞    12.2                      |
| <input type="checkbox"/> 2. 朝日新聞    19.2 | <input type="checkbox"/> 6. その他 [                      ] 21.3 |
| <input type="checkbox"/> 3. 毎日新聞    5.4  |   |
| <input type="checkbox"/> 4. 産経新聞    3.5  | <input type="checkbox"/> 7. 新聞は読んでいない    30.5                 |

【7が選択された場合⇒Q4：それ以外⇒Q3】

Q3 あなたはふだん、1日にどれくらい新聞を読んでいますか？

平日と休日に分けてお答えください。(読まない日は、0時間0分とご記入ください)

※ スポーツ紙は含みません。

※ 購入はしていなくても、かまいません。

※ インターネット上の新聞社サイトやニュースサイトなどに掲載(アップ)された記事を読むのは、含みません。

平日1日に [ ] 時間 [ ] 分くらい 平均 27 分 (SD=20) 中央値 30 分 [N=694]

休日1日に [ ] 時間 [ ] 分くらい 平均 31 分 (SD=25) 中央値 30 分 [N=694]

Q4 あなたはふだん、パソコンで、1日にどれくらいインターネットを利用していますか？

ウェブをみる、ブログや掲示板(BBS)を読む・書く、メールを読む・書くなど、すべての利用時間を合わせてお答えください。

※ ビジネス・プライベート問わずにお答えください。

※ 携帯電話によるi-mode・EZwebなどの情報サイトやメールの利用は、含みません。

平日1日に [ ] 時間 [ ] 分くらい 平均 185 分 (SD=157) 中央値 120 分

休日1日に [ ] 時間 [ ] 分くらい 平均 205 分 (SD=169) 中央値 180 分

Q5 一般的に言って、インターネット上の情報で、信用できるものは何割くらいだと思いますか？

[ ] 割くらい 平均 5.2 割 (SD=1.8) 中央値 5 割

Q6 あなたは、パソコンで、どのくらいウェブ(情報サイト)をみますか？

※ ビジネス・プライベート問わずにお答えください。

※ 携帯電話によるi-mode・EZwebなどの情報サイトやメールの利用は、含みません。

○ 1. 日に数回以上 70.6 ○ 4. 月に数回くらい 1.6

○ 2. 日に1回くらい 21.5 ○ 5. それ以下 1.1

○ 3. 週に数回くらい 5.1

Q7 あなたは、パソコンで、1週間に何通くらい電子メールを送信しますか？

また、そのうち、友達・家族に送るメールは何通くらいですか？

※ ビジネス・プライベート問わずにお答えください。

※ 携帯電話によるメールは、含みません。

週に [ ] 通くらい送信する 平均 17.6 通 (SD=59.4) 中央値 3 通

そのうち、友達に送るメールは [ ] 通くらい 平均 3.1 通 (SD=6.5) 中央値 1 通

そのうち、家族に送るメールは [ ] 通くらい 平均 1.6 通 (SD=6.5) 中央値 0 通

Q8 あなたがメールをやりとりする相手のなかに、インターネット上で知り合った人は何人くらいいますか？（いない場合は、0人とご記入ください。）

※ 携帯電話(i-mode・EZwebなどの情報サイトやメール)を介して知り合った人は、含みません。

インターネットで知り合い、まだ一度も会ったことのない人 [ ] 人

インターネットで知り合い、その後、会ったことのある人 [ ] 人

平均 5.4 人 (SD=46.7) 中央値 0 人 / 平均 1.8 人 (SD=7.2) 中央値 0 人

Q9 あなたは、自分のホームページやブログを持っていますか？

持っているものをすべて選んでください。

※ mixi (ミクシィ) などのSNSサイトは、含みません。

1. ホームページ 16.2

2. ブログ 33.5

3. ホームページもブログも持っていない 60.9

Q10 あなたは、パソコンで、インターネットの次のような機能・サービスを利用することが、どれくらいありますか？

	1	2	3	4	5	6	7
	ほぼ毎日	週2〜3回	週1回くらい	月2〜3回	月1回くらい	それ以下	まったくない
1. オンラインゲーム	5.4	4.2	4.7	2.8	4.4	20.5	57.9
2. メッセンジャー	6.8	3.2	3.2	3.4	4.5	18.2	60.6
3. 掲示板「2ちゃんねる」を読む	12.9	7.3	7.2	7.9	9.9	20.1	34.6
4. 掲示板「2ちゃんねる」に書きこむ	2.3	1.9	1.7	2.7	1.6	11.8	78.0
5. 「2ちゃんねる」以外の掲示板を読む	15.4	11.7	9.8	8.2	5.7	16.1	33.0
6. 「2ちゃんねる」以外の掲示板に書きこむ	3.2	3.3	4.8	3.9	3.4	18.0	63.3

【3.で1〜6が選択された場合⇒Q11：その他⇒Q12】

Q11 「2ちゃんねる」では、どのような板を読みますか？（いくつでも）

[N=653]

1. 政治・社会についての板（政治板やニュース極東版、ニュース速報+など） 38.7

2. 趣味についての板（スポーツ板、邦楽板・洋楽板、漫画板、アニメ板など） 76.4

3. テレビや芸能についての板（実況板、テレビドラマ板、芸能板など） 45.8

4. その他 [ ] 9.2

Q12 あなたは、インターネットを使っていて、次のようなことがありますか？

	1	2	3	4
	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 自分と違った考えや意見の人とのつきあいが広がった	7.8	21.5	28.7	42.0
2. 自分と同じような考えや意見の人とのつきあいが広がった	10.1	25.6	23.6	40.7
3. 自分と同じような趣味や関心の人とのつきあいが広がった	13.7	25.1	22.7	38.5
4. 自分と違った年齢・世代の人とのつきあいが広がった	10.5	22.2	25.1	42.2
5. 自分と違った職業の人とのつきあいが広がった	8.9	20.8	25.7	44.6
6. ネット上でボランティア活動に参加した	1.9	8.3	19.8	69.9
7. ネット上で市民活動や社会運動に参加した	0.6	4.8	20.0	74.5
8. ネットが原因で、睡眠不足になることが増えた	9.8	32.1	21.0	37.1
9. ネットにアクセスしないと不安に感じるようになった	8.2	28.9	26.5	36.5

Q13 インターネットについて、それぞれの項目に対して、あなたのお気持ちに当てはまるものをお選びください。

	1	2	3	4
	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない
1. ネットでは人の本音や本当の姿があらわれやすい	16.5	48.0	27.7	7.8
2. ネットはあくまで見て楽しむもので、積極的に参加するようなものではない	7.7	43.4	42.0	6.9
3. ネット上の悪口などを、ただ見ているだけであれば悪いことではない	5.0	25.5	44.8	24.7
4. ネットに人を傷つけるような情報が載るのはしかたないことだ	6.9	30.3	32.9	30.0
5. ネット上で過激な書きこみや発言があっても、たいてい冗談半分で、本気ではない	5.5	29.1	44.2	21.2



Q14 インターネット上での「炎上」(ブログや掲示板などで起きるバッシングや悪口、誹謗中傷など)について、それぞれの項目に対してあなたのお気持ちに当てはまるものをお選びください。

	1	2	3	4
	そう 思う	やや そう 思う	あまり 思わ ない そう	そう 思わ ない
1. 目立つことをしていれば、ネットで叩かれても当然だ	9.2	39.9	36.8	14.1
2. ネットで叩かれる側にも、叩かれるだけの理由がある	11.4	53.5	26.6	8.5
3. 自分に関係のないものであれば、見ていておもしろい	4.8	22.4	47.1	25.7

Q15 あなたは、携帯電話 (PHS/プリペイドを含む) を利用していますか?

※ビジネス・プライベート問わずでお答えください。

1. はい 94.1       2. いいえ 5.9

【1が選択された場合⇒Q16：2が選択された場合⇒Q22】

Q16 あなたは、携帯電話で、1週間に何回くらい友達・家族に電話をかけますか?

※ ビジネス・プライベート問わずでお答えください。

(かけない場合は0回とご記入ください) [N=939]

友達に 週 [ ] 回くらい      平均 3.3 回 (SD=7.9)      中央値 1 回  
 家族に 週 [ ] 回くらい      平均 3.0 回 (SD=4.6)      中央値 1 回

Q17 あなたは、携帯電話で、1週間に何通くらいメールを送信しますか?

また、そのうち、友達・家族に送るメールは何通くらいですか?

※ ビジネス・プライベート問わずでお答えください。 [N=939]

週に [ ] 通くらい送信する      平均 22.2 通 (SD=33.6)      中央値 10 通  
 そのうち、友達に送るメールは [ ] 通くらい      平均 14.9 通 (SD=28.0)      中央値 5 通  
 そのうち、家族に送るメールは [ ] 通くらい      平均 6.0 通 (SD=10.0)      中央値 3 通

Q18 あなたの携帯電話のアドレス帳には、何人くらい登録されていますか?

また、そのうち、「友達」は何人くらいですか? [N=939]

登録件数は [ ] 人くらい      平均 104 人 (SD=103)      中央値 70 人  
 そのうち、友達は [ ] 人くらい      平均 49 人 (SD= 58)      中央値 30 人

Q19 あなたがメールをやりとりする相手のなかに、携帯電話（i-mode・EZwebなどの情報サイトやメール）を介して、知り合った人は何人くらいいますか？（いない場合は、0人とご記入ください）

携帯電話を介して知り合い、まだ一度も会ったことのない人： [ ] 人

携帯電話を介して知り合い、その後、会ったことのある人： [ ] 人

平均 0.3 人 (SD=1.4) 中央値 0 人 / 平均 0.7 人 (SD=9.6) 中央値 0 人 [N=939]

Q20 あなたは、携帯電話で、i-mode・EZweb などを通じて、どのくらい情報サイト（ウェブ）をみますか？

※ ビジネス・プライベート問わずでお答えください。 [N=939]

- |              |      |              |      |
|--------------|------|--------------|------|
| ○ 1. 日に数回以上  | 22.5 | ○ 4. 月に数回くらい | 11.2 |
| ○ 2. 日に1回くらい | 15.2 | ○ 5. それ以下    | 15.3 |
| ○ 3. 週に数回くらい | 16.4 | ○ 6. まったくみない | 19.4 |

Q21 携帯電話利用について、あなたには次のことがどれくらいあてはまりますか？ [N=965]

	1	2	3	4
	あてはまる	ややあてはまる	あはまらない	あはまらない
1. 着信がないか一日に何度も携帯電話を確認してしまう	10.6	24.6	34.8	29.9
2. 電波の届かないところにいると、なんとなく落ち着かない	5.8	23.5	34.2	36.5
3. 友達のメールには、すぐ返信するようにしている	14.1	43.8	28.6	13.5
4. 友達に送るメールには、絵文字や顔文字をよく使う	18.0	38.1	25.2	18.6
5. 携帯電話を通じて友達に縛られているような気がする	2.2	8.9	43.5	45.4

Q22 SNS サイトの「mixi（ミクシィ）」について、お伺いします。

あなたは mixi にどれくらいの頻度でアクセスしていますか？ 利用していない、または、知らない場合は、「7. 利用していない・知らない」を選んでください。

※ パソコンまたは携帯電話でのアクセス、いずれによる利用でもかまいませんので、両方を含めてお答えください。

- |             |      |                   |      |
|-------------|------|-------------------|------|
| ○ 1. 日に5回以上 | 4.2  | ○ 5. 週に1回くらい      | 4.3  |
| ○ 2. 日に3～4回 | 4.9  | ○ 6. それ以下         | 10.2 |
| ○ 3. 日に1～2回 | 12.6 |                   |      |
| ○ 4. 週に数回   | 9.1  | ○ 7. 利用していない・知らない | 54.6 |

【1～6が選択された場合⇒Q23：2が選択された場合⇒Q25】

Q23 mixi (ミクシィ) についてお伺いします。

あなたのマイミクシィ (マイミク) 登録数は、何人くらいですか？

[ ] 人くらい                      平均 21 人 (SD=36)   中央値 10 人                      [N=453]

Q24 mixi (ミクシィ) についてお伺いします。

あなたは、次のようなことをどれくらいの頻度でおこなっていますか？                      [N=453]

	1	2	3	4	5	6
	ほぼ毎日	週2〜3回	週1回くらい	月2〜3回	月1回以下	まったくしない
1. 自分の日記を書く	5.1	10.8	15.7	12.4	26.7	29.4
2. 他の人の日記を読む	30.0	22.1	11.7	8.4	18.1	9.7
3. 他の人の日記にコメントする	10.6	20.3	14.1	12.8	19.9	22.3
4. コミュニティの書きこみを読む	15.5	13.9	12.4	9.3	22.7	26.3
5. コミュニティに書きこむ	2.6	4.9	7.9	8.8	29.1	46.6
6. 足あとをチェックする	21.6	17.4	13.5	7.5	19.6	20.3

《ここからは、あなたの一般的なお考えや生活行動などについて、お伺いします》

Q25 以下にあげるそれぞれの項目に対して、当てはまるものをお選びください。

	1	2	3	4
	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてい	あてまらない
1. ゴミはいつもきちんと分別して捨てるようにしている	46.7	43.4	8.0	1.9
2. 選挙にはできるだけ投票に行くようにしている	45.8	25.8	15.0	13.4
3. お年寄りや赤ちゃんを連れた人には、なるべく席をゆずるようにしている	33.9	48.4	15.4	2.3
4. 地域の行事や活動には、なるべく参加するようにしている	8.0	22.7	42.3	27.0
5. 信頼できる募金活動であれば、なるべくお金を出すようにしている	7.4	30.1	41.3	21.2

Q26 あなたはボランティア活動に参加したことはありますか？

※ 学校の授業などの一環として参加した場合は除いてお答えください。

- 1. 現在参加している 4.1
- 2. 過去に参加したことがある 28.7
- 3. 参加したことはないが、機会があれば参加してみたい 38.6
- 4. 参加したことはなく、参加してみたいとも思わない 28.7

Q27 人づきあいについて、あなたは次のように思いますか？

	1	2	3	4
	そう 思う	やや 思う	あまり 思わ ない そう	そう 思わ ない
1. 世の中の多くの人基本的には正直である	3.8	38.9	45.2	12.1
2. この社会では、気をつけていないと誰かに利用されてしまう	22.5	61.4	14.7	1.3
3. 世の中の多くの人信頼できる	3.0	37.4	49.8	9.8
4. まったく知らない人よりは、友達の知り合いである人のほうが ずっと信頼できる	15.9	51.6	28.0	4.5
5. 人々はいつも自分の利益のことばかり考えている	12.9	56.6	28.5	2.0
6. 世の中の多くの人他人を信頼している	2.8	34.8	53.2	9.2
7. 私が信頼する人間は、長くつきあってきた相手である	31.0	50.6	16.6	1.8
8. 私は信頼できる人と信頼できない人を見分ける自信がある	8.0	38.2	45.8	8.0
9. この社会では、人を助ければ、いずれ自分も助けてもらえると 期待できる	4.2	37.3	45.5	13.0
10. 人から親切にしてもらったら、自分も他の人に親切にしよう という気持ちになる	37.7	54.2	6.7	1.4
11. 他人に迷惑をかけなければ、何をしようとする個人の自由だ	5.1	21.7	40.2	33.0

Q28 では、インターネット上での人づきあいについて、あなたは次のように思いますか？

	1	2	3	4
	そう 思う	やや 思う	あまり 思わ ない そう	そう 思わ ない
1. ネット上の多くの人基本的には正直である	3.1	24.3	50.9	21.6
2. ネット上では、気をつけていないと誰かに利用されてしまう	35.6	46.8	14.2	3.4
3. ネット上の多くの人信頼できる	1.0	9.3	62.0	27.7

4. ネット上では、まったく知らない人よりは、友達の知り合いである人のほうがずっと信頼できる	17.6	46.4	27.2	8.8
5. ネット上の人々はいつも自分の利益のことばかり考えている	12.2	40.9	42.1	4.8
6. ネット上の多くの人は他人を信頼している	1.3	11.6	59.3	27.8
7. 私はネット上で信頼できる人と信頼できない人を見分ける自信がある	1.8	12.5	49.1	36.6
8. ネット上では、人を助ければ、いずれ自分も助けてもらえると期待できる	0.8	11.9	51.1	36.2
9. ネット上で人から親切にしてもらったら、自分もネット上で他の人に親切にしようという気持ちになる	9.4	50.1	27.5	13.0
10. ネット上では、他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由だ	5.2	15.6	36.3	42.9

Q29 あなたが親しくつきあっている近所の人、友達は、それぞれ何人いますか？

(いない場合は、0人とご記入ください。)

1. 近所の人： [ ] 人 平均 2.6 人 (SD=5.5) 中央値 1 人
2. 会いに行くのに 1 時間以内で会える友達： [ ] 人 平均 5.2 人 (SD=8.0) 中央値 3 人
3. 会いに行くのに 1 時間以上かかる友達： [ ] 人 平均 6.3 人 (SD=14.5) 中央値 3 人

Q30 あなたの友達づきあいは、A、Bのどちらに近いですか？

	1	2	
	A に近い	B に近い	
A			B
1. たいていの場合、同じ友達と行動をともにすることが多い	47.7	52.3	1. 場合に応じて、いろいろな友達とつきあうことが多い
2. 友達であっても、プライベートなことには深入りしたくない	61.9	38.1	2. 友達とはプライベートなことも含めて、密接につきあいたい
3. 話す友達によって、自分のキャラ(性格)が変わることがよくある	45.7	54.3	3. どんな友達と話しても、自分のキャラ(性格)はほとんど変わらない
4. 今の友達も含めて、さらに新しい友達の輪を広げたい	56.6	43.4	4. 新しい友達を作るよりは、今の友達とさらに仲良くしたい
5. 友達のなかでも、地元・出身地の友達が特に大切だ	32.0	68.0	5. 地元・出身地の友達が特に大切というわけではない
6. 友達づきあいで重要なのは、話の中身よりノリが合うこと	39.8	60.2	6. 友達づきあいで重要なのは、ノリが合うことより話の中身
7. 友達と意見が食い違ったときは、納得いくまで議論する	50.6	49.4	7. 友達と意見が食い違ったら、相手に話を合わせる

Q31 あなたには、次のようなことが、どれくらいあてはまりますか？

	1	2	3	4
	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. まわりから友達がいないように見られるのは耐えられない	6.3	27.6	44.4	21.7
2. 友達や知り合いに、ちょっとした贈り物をするのが好きなほうだ	12.1	42.4	34.6	10.9
3. 私の興味や考えは、私のまわりの人たちとは違う	9.2	44.2	43.3	3.3
4. ひとりで食事したり部屋にいたりするのは、耐えられない	1.8	10.0	39.5	48.7
5. 中身はともかく、熱く盛り上がれることが好きだ	12.6	42.6	35.6	9.2
6. 友達や知り合いに悪口を言われているかもと不安になることが多い	9.4	32.5	44.1	14.0
7. 自分と関係ないことにはできるだけ関わらないようにしている	13.7	56.5	27.2	2.6
8. 人が自分のことをどう思っているか気になる	13.5	47.7	31.5	7.3
9. 私には頼りにできる人がいない	4.9	18.5	48.7	27.9
10. 自分のふるまいが場違いではないかと気になることがある	10.1	43.7	39.0	7.2
11. 私は自分のまわりの人たちとうまくいっている	7.2	61.8	26.5	4.5
12. 何かするときには人の目を考慮する	11.4	60.0	24.9	3.6
13. 仲間はずれになるのがこわい	9.3	38.4	41.0	11.3

Q32 あなたは、次にあげる国について、親しみを感じますか？

	1	2	3	4	5
	かなり感じる	まあ感じる	どちらでもない	あまり感じない	まったく感じない
1. アメリカ	7.9	44.4	25.9	13.9	7.9
2. イギリス	4.6	30.5	37.9	19.4	7.6
3. フランス	3.0	23.9	40.8	23.1	9.1
4. 中国（中華人民共和国）	1.6	12.5	28.8	30.1	27.1
5. 台湾（中華民国）	6.1	26.6	34.5	18.8	14.0
6. 韓国（大韓民国）	4.0	26.0	29.8	19.7	20.5
7. イラク	0.1	1.2	23.8	32.1	42.8
8. イラン	0.3	1.7	24.1	32.2	41.7
9. イスラエル	0.5	1.9	23.5	31.8	42.3
10. ブラジル	1.3	18.5	34.5	22.5	23.1
11. インド	2.1	15.0	35.1	25.6	22.2

Q33 日本について、あなたは次のようなことを、どれくらい誇りに思いますか？

	1	2	3	4
	と誇思 てりう もに	ま誇思 ありう に	あ誇思 まりに ない	ま誇思 つりわ たに ない
1. 日本における民主主義の現状	3.3	38.7	46.9	11.1
2. 世界における日本の政治的影響力	2.6	22.9	52.4	22.0
3. 日本の経済的成果	10.7	47.3	32.4	9.6
4. 日本の社会保障制度	3.2	22.5	49.2	25.1
5. 科学技術の分野で日本人が成し遂げたこと	29.0	52.0	16.6	2.4
6. スポーツの分野で日本人が成し遂げたこと	22.3	49.6	24.8	3.2
7. 文学芸術の分野で日本人が成し遂げたこと	23.9	51.4	21.6	3.0
8. 日本の自衛隊	3.6	26.1	52.7	17.6
9. 日本の歴史	11.6	38.0	42.8	7.6
10. 日本社会における公正さと平等	4.1	30.6	48.5	16.8
11. 日本の伝統文化	41.3	43.5	12.1	3.1
12. 現代日本のポピュラー文化（アニメ、J-POP など）	30.3	50.1	16.1	3.5

Q34 日本や日本人について、あなたは次のように思いますか？

	1	2	3	4	5
	そう 思う	ま あ そう 思う	ど い え ら と も	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い
1. 日本人であれば、日本に愛着をもつのは自然な感情だ	25.8	48.4	14.8	7.0	4.0
2. 日本人である以上、国のための奉仕活動には積極的に参加すべきだ	4.9	26.8	43.4	17.2	7.7
3. 日本人なら、スポーツの国際試合で日本チームだけに声援をおくるのは当然だ	6.7	21.2	28.9	27.9	15.3
4. 日本人のあいだに国を愛する気持ちをもっと育てる必要がある	14.7	35.4	32.9	10.4	6.6
5. 今の日本では、犯罪を取り締まるために、生活が多少不自由になってもしかたない	6.7	26.8	37.4	22.5	6.6
6. 今の日本では、伝統や慣習が軽視されすぎている	21.5	43.6	25.4	6.7	2.8
7. 日本のマスコミの情報は偏っていて信用できない	26.9	36.6	30.7	5.1	0.8
8. 日本に合法的に移住した外国人は、日本人と同じ権利を持つべきだ	14.4	39.5	32.5	7.9	5.7
9. 不法滞在している外国人を、日本政府はもっと厳しく取り締まるべきだ	32.9	34.3	26.6	5.0	1.3

Q35 日本に定住しようと思って日本へ来る外国人について、次のような意見があります。あなたはどのように思いますか？

	1	2	3	4	5
	そう思う	まあそう思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない
1. そうした外国人が増えれば、犯罪発生率が高くなる	12.4	25.7	38.7	18.7	4.5
2. そうした外国人は、全体としては日本の経済に役立っている	8.0	46.9	34.1	8.3	2.7
3. そうした外国人は、日本人から仕事を奪っている	4.1	16.2	39.4	31.4	8.9
4. そうした外国人は、新しい考えや文化をもたらし、日本の社会を良くしている	4.8	26.5	49.7	14.7	4.3
5. 政府は、そうした外国人の援助に金を使いすぎている	8.4	16.1	52.8	18.2	4.4

Q36 あなたは、この1年ぐらいの間に、政治や社会の問題について、次のようなことをしたことがありますか？

	1	2	3
	ある	ない	答えたくない
1. デモに参加した	1.2	97.3	1.5
2. 署名運動に協力した	24.5	73.4	2.0
3. マスコミに投書した	3.3	95.0	1.7
4. 献金・カンパした	14.9	83.5	1.6
5. 集会や会合に出席した	5.7	92.2	2.1
6. 政党や団体の新聞・雑誌などを買って読んだ	2.4	95.4	2.2
7. 政党や団体の一員として活動した	1.9	95.9	2.2
8. 政党や団体のメールマガジンを読んだ	6.4	91.6	2.0
9. 政府や役所、政治家にメールを送った	2.2	95.6	2.2
10. 自分のホームページやブログに、意見や考えを書きこんだ	10.2	88.0	1.8
11. 他の人のブログに、自分の意見や考えをコメントした	9.5	88.6	1.9
12. 電子掲示板やメーリングリスト等で議論に参加した	3.5	94.4	2.1



Q37 あなたは、政治について、次のように思いますか？

	1	2	3	4	5
	そう思う	ややそう思う	あまりそう思う	そう思わない	答えたくない
1. 政治のことは難しくてよくわからない	9.8	42.3	26.7	20.1	1.1
2. 国民が選挙で投じた「一票」は、現実の政治に反映している	6.1	23.6	36.0	32.4	1.9
3. 政治への参加を、具体的な行動であらわしたい	7.0	25.1	48.5	17.6	1.8
4. 政治的な主張の強い人は、あまり好きになれない	6.6	28.6	44.9	18.3	1.6
5. 今の政治家には、強い個性やキャラクターが何より重要だ	5.1	21.4	42.9	28.6	2.0
6. 政治家は、もっとわかりやすい言葉で話すべきだ	36.5	44.8	13.7	3.8	1.2
7. 市民の間で、もっと政治的な議論をたたかわせるべきだ	18.6	49.0	27.2	3.7	1.5

Q38 あなたは、次のことに賛成ですか、反対ですか？

	1	2	3	4	5	6	7
	賛成	やや賛成	どちらでもない	やや反対	反対	わからない	答えたくない
1. 首相や大臣の靖国神社への公式参拝	17.0	13.6	36.1	9.7	14.1	8.4	1.0
2. 憲法9条1項（戦争放棄）の改正	8.4	10.8	20.5	15.2	36.5	7.4	1.1
3. 憲法9条2項（軍隊・戦力の不保持）の改正	9.7	13.3	24.5	15.2	28.2	7.8	1.2
4. 夫婦別姓	12.8	18.0	40.5	10.9	12.5	4.4	0.8
5. 死刑制度の廃止	3.0	4.8	18.1	21.8	47.1	4.1	1.0
6. 少年犯罪に対する厳罰化	54.3	28.5	10.0	2.4	1.3	2.6	0.9
7. 犯罪歴のある人物の住所・氏名などの公開	28.9	30.9	23.1	9.1	3.0	4.1	0.9
8. 裁判員制度（一般市民の司法参加）	12.6	20.3	32.3	15.9	13.6	4.3	0.9
9. 小中学校の式典での国旗掲揚・国歌斉唱	20.0	15.8	42.3	7.9	8.5	4.4	1.0
10. 小中学校での愛国心教育	12.4	17.2	39.3	13.5	11.7	4.8	1.0

Q39 あなたが最後に在籍した、または在学中の学校は、次のどれですか？

<在学中の方>

- 1. 短大・高専 1.1
- 2. 専門学校 1.7
- 3. 大学 12.2
- 4. 大学院 1.9
- 5. その他の学校 [ ] 0.0

<卒業した方>

- 6. 中学校 1.2
- 7. 高校 21.2
- 8. 短大・高専 13.0
- 9. 専門学校 12.8
- 10. 大学 30.5
- 11. 大学院 4.2
- 12. その他の学校 [ ] 0.1

Q40 お宅（生計をともにしている家族）の世帯年収は、税込みで次のどれにあたりますか？

※ 自分だけでなく他のご家族の収入も合計してお答えください。

- 1. 200 万円未満 6.6
- 2. 200 万円以上～400 万円未満 18.7
- 3. 400 万円以上～600 万円未満 24.5
- 4. 600 万円以上～800 万円未満 16.1
- 5. 800 万円以上～1000 万円未満 9.7
- 6. 1000 万円以上～1200 万円未満 4.6
- 7. 1200 万円以上 3.3
- 8. わからない／答えたくない 16.3